

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：平成30年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業281社
3. 内 訳：製造業64、卸売業29、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業49
サービス業39、建設業36
4. 回答企業数：208社（74.0%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

調査業種の区分変更について

- ・小樽市の観光業の経済動向を把握するため、今年度から「観光・サービス業」を「観光業」と「サービス業」に分類し、全7業種の調査としました。
- ・前年同期は「観光業」、「サービス業」の区分で調査を行っていないため、同業種の調査結果は今期実績と来期予想のみ掲載しています。

概 況

— 市内景況は、改善している —

前年同期（平成29年4月～6月）と比べた今期（平成30年4月～6月）の状況
今期と比べた来期（平成30年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは1.8で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

業種別DIは、製造業が同3.6ポイント上昇の▲2.1、原材料仕入価格の高騰が課題となっています。卸売業は売上の大幅な改善や、採算の回復傾向により同10.9ポイント上昇の▲4.5となりました。小売業は同5.0ポイント上昇の▲17.2、市内人口の減少に伴う利用客の減少や、従業員の確保難が懸念材料となっています。運輸・倉庫業は原油価格の高騰や人件費の上昇が業況の改善を鈍らせ、同1.4ポイント上昇の▲11.1となりました。建設業は公共工事の減少傾向が見られるものの、受注額の堅調な推移が影響し同21.8ポイント上昇の16.6となりました。観光業は原材料仕入価格や輸送費の上昇の影響を受けつつも、インバウンドを中心とした好調な売上により3.0となりました。サービス業は仕入価格の上昇、従業員の確保難等の課題があるものの、好調な売上、採算により27.6となりました。

来期の業況判断DIは1.7で、ほぼ横ばいを予想しています。人材不足の解消や、原材料仕入価格の上昇が全業種共通の課題であり、観光業ではシーズン到来による好調、建設業では公共工事の減少による悪化が予想されています。

業況、売上、採算

今期（H30.4～6）の業況判断DIは1.8で、前年同期(H29.4～6)と比べ10.7ポイント上昇しました。

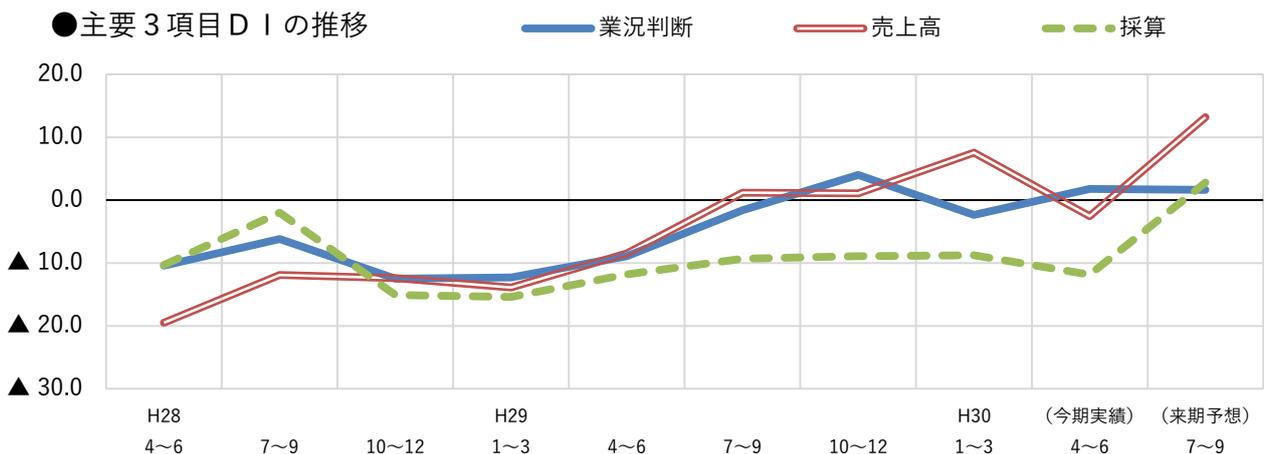
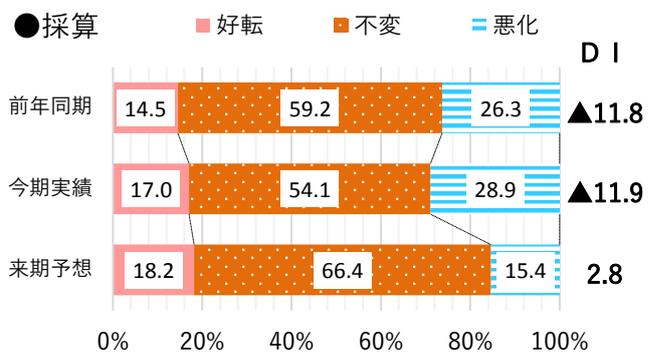
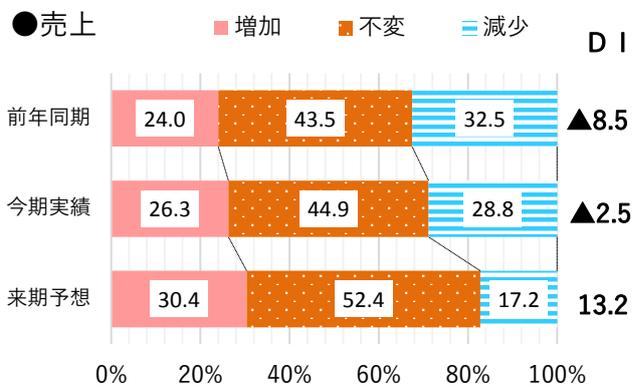
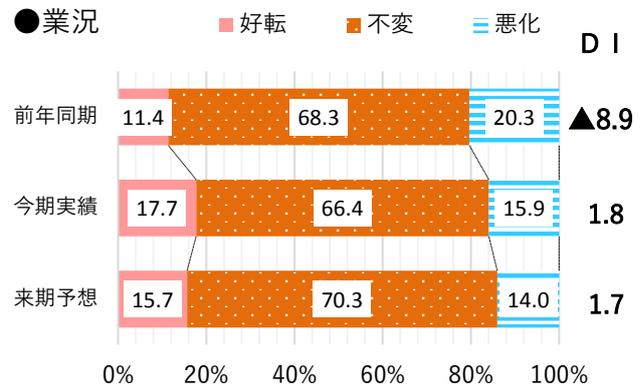
来期（H30.7～9）のは、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。

今期の売上高DIは▲2.5で、前年同期と比べ6.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上増加の動きが強まると予想しています。

今期の採算DIは▲11.9で、前年同期と比べ0.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算好転の動きが強まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

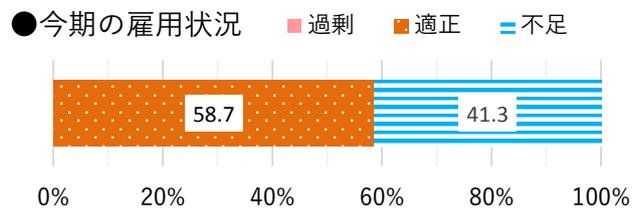
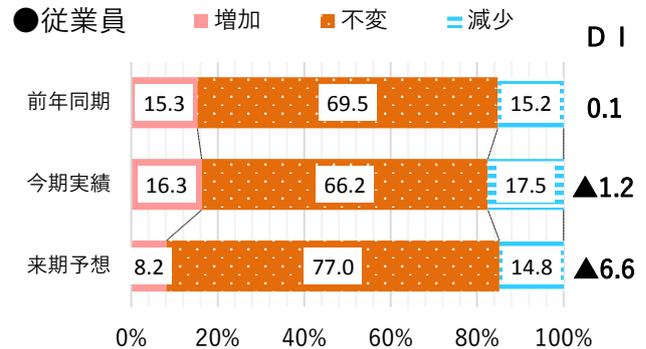
今期の従業員DIは▲1.2で、前年同期と比べ1.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は58.7%、不足していると回答した企業の割合は41.3%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の43.8%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

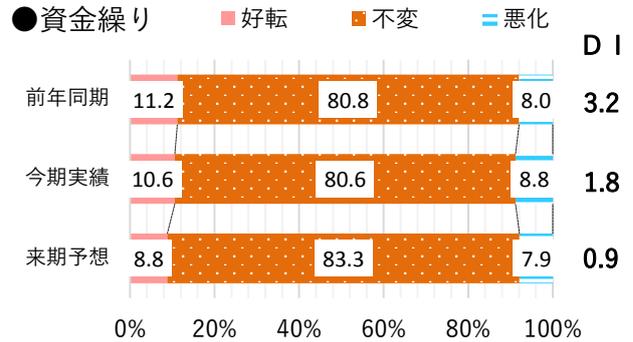


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	25
	不足	10
不変だった	過剰	0
	適正	91
	不足	45
減少した	過剰	0
	適正	6
	不足	31

資金繰り、設備投資

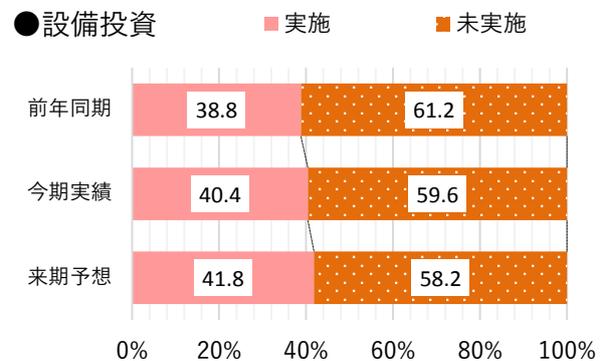
今期の資金繰りDIは1.8で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった208社の40.4%にあたる84社が実施、前年同期と比べ1.6%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」の順です。

来期は、41.8%にあたる87社が設備投資を計画していると回答しています。

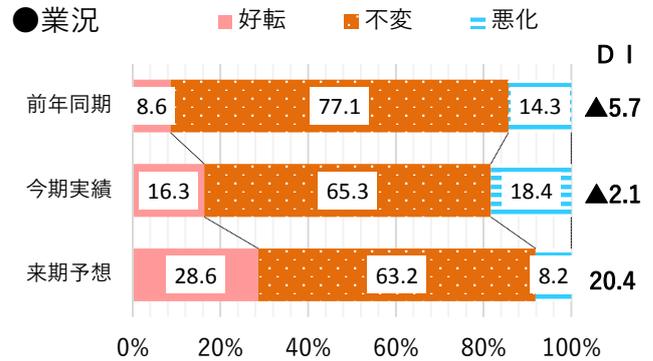


製造業

業況、売上、採算

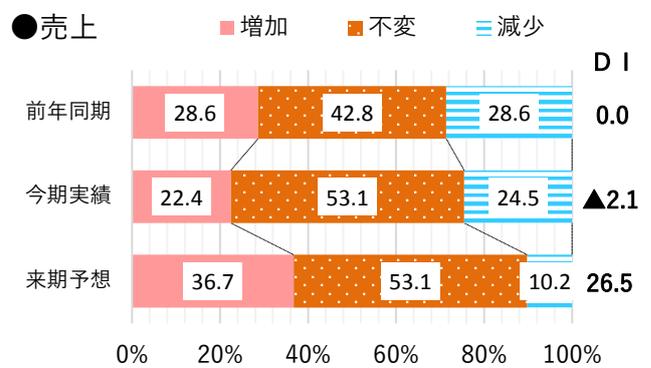
今期(H30.4~6)の業況判断DIは▲2.1で、前年同期(H29.4~6)と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期(H30.7~9)は、今期と比べ業況が好転すると予想しています。



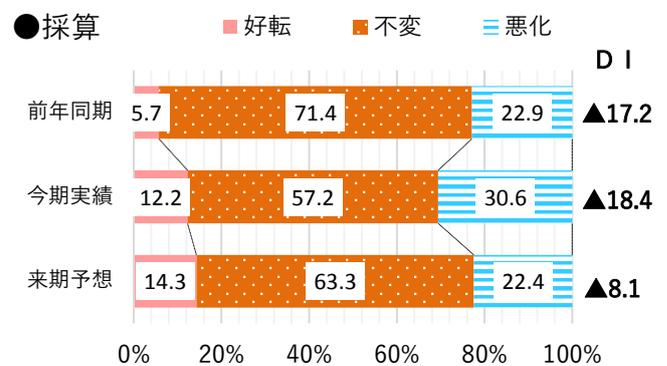
今期の売上DIは▲2.1で、前年同期と比べ2.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加すると予想しています。

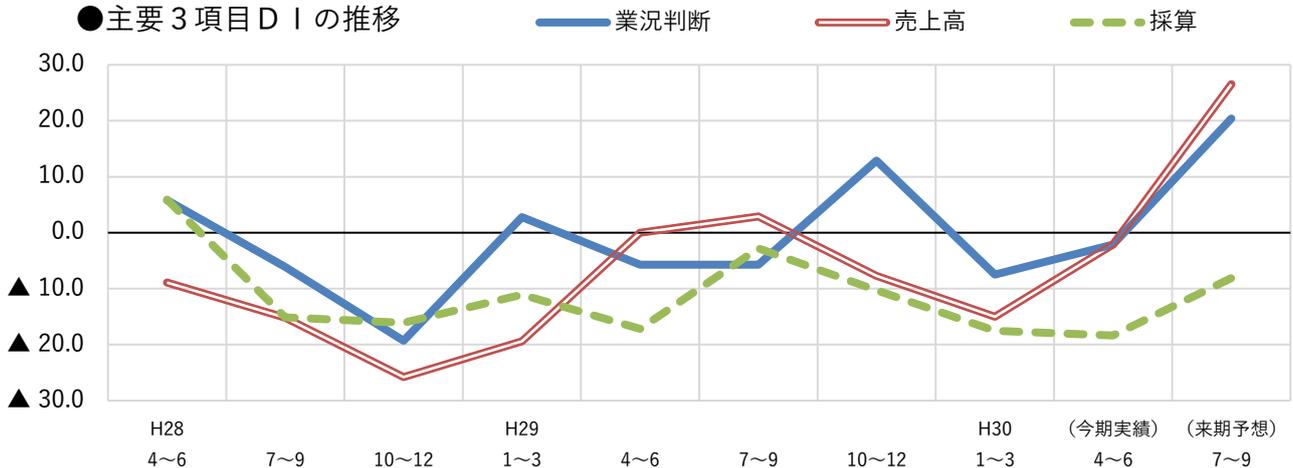


今期の採算DIは▲18.4で、前年同期と比べ▲1.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算好転の動きが強まると予想しています。



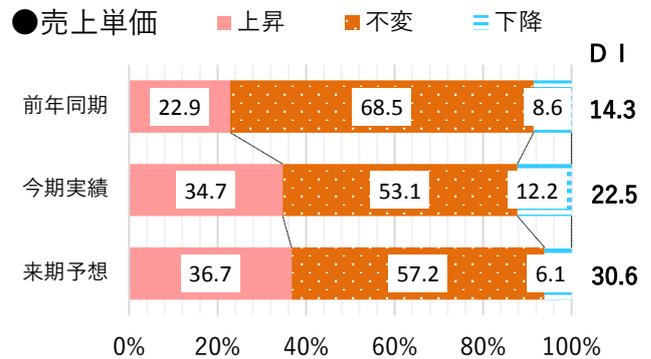
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

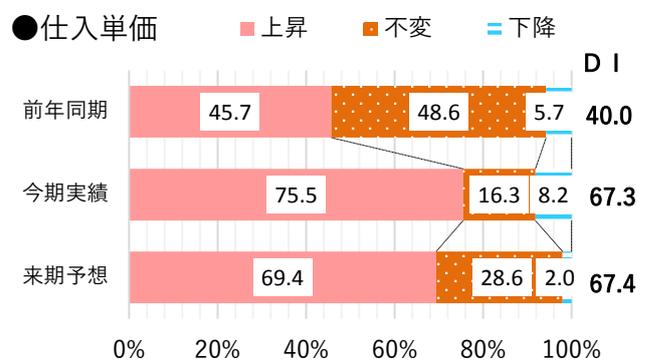
今期の売上単価DIは22.5で、前年同期と比べ8.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上単価上昇の動きが強まると予想しています。



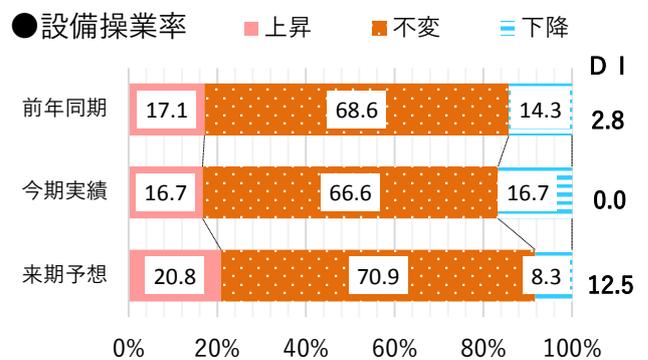
今期の仕入単価DIは67.3で、前年同期と比べ27.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、引き続き仕入単価上昇が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは0.0で、前年同期と比べ2.8ポイント低下しました。

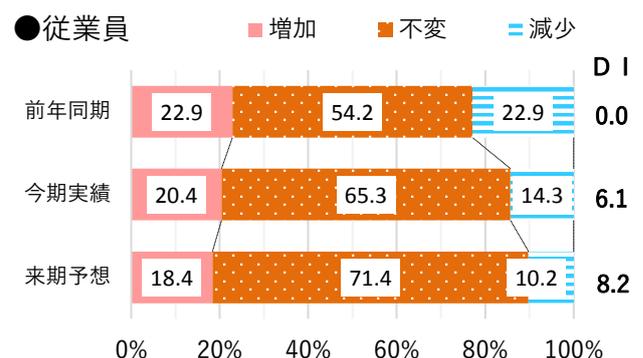
来期は、今期と比べ設備操業が進むと予想しています。



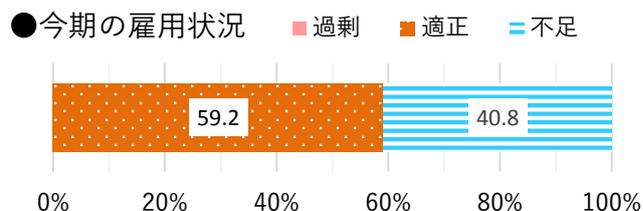
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは6.1で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は59.2%、不足していると回答した企業の割合は40.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の44.0%を占めています。

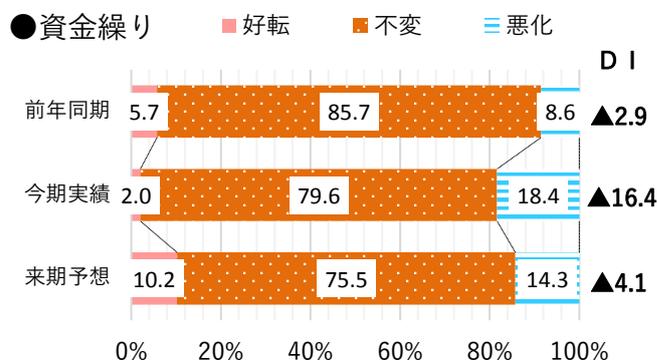
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	7
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	22
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	6

資金繰り、設備投資

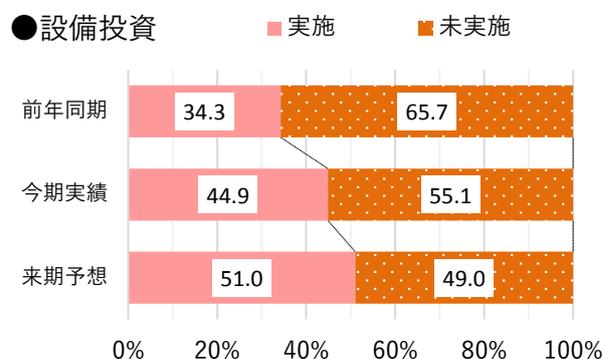
今期の資金繰りDIは▲16.4で、前年同期と比べ13.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りが改善すると予想しています。



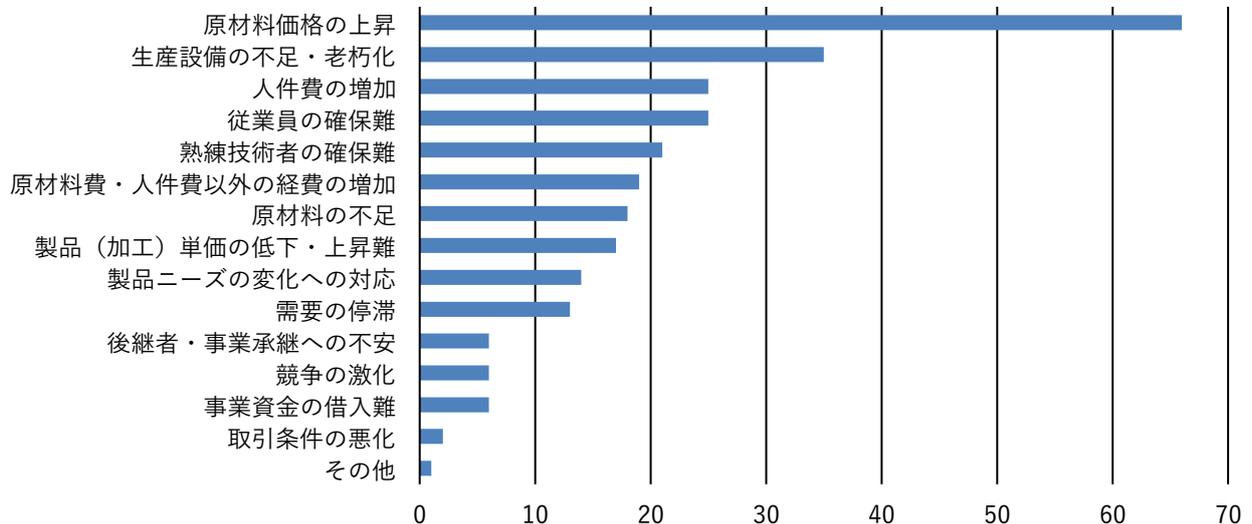
設備投資を実施した企業の割合は44.9%で、前年同期と比べ10.6%増加しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「工場建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は51.0%で、今期と比べ増加すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「人件費の増加」、「従業員の確保難」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 気温の変動により、ゴールデンウィーク中の売上が思った以上に伸び悩んだ。（飲料）
- 輸送費上昇のため、ほぼ全ての原材料が値上がりした。（家具建具）
- 公共事業の進捗が最も低調な時期のため、売上は減少した。（金属製品）
- 例年より2~3ヶ月出荷時期の遅れがあり、売上が一時的に減少した。（金属製品）
- 遅れ気味であった物件が動き始め、売上、経常利益も堅調に推移している。（金属製品）
- 金属系の原材料が値上がりしている。（金属製品）
- 仕入価格が値上がりの傾向にあるものの販売単価への転嫁が厳しい。（プラスチック）
- 人員の確保が厳しい。効率化等により原料値上げに対する改善を図っているが、限界がある。（プラスチック）
- 前年度末に売上が集中したことから閑散期に入っており、売上は四半期毎で高低が生じている。部品等の仕入価格は、1~15%の値上げになっている。（機械器具）
- 工場の人員が不足しており、派遣社員での対応となっている。（食料品）
- 売上が減少し、各種経費は増加した。人材の確保に苦慮している。（食料品）
- 新工場が稼働し、前年比で140%の売上を計画している。仕入先の変更、大量仕入れによるコスト削減に取り組んでいる。新入社員を採用し、人材を確保した。（食料品）
- 原料価格が前年に比べ下降したため、製品価格の引き下げを検討している。（食料品）
- 輸送費の大幅な値上げと包装資材の今後の値上げを予想している。（食料品）
- 春先からの天候不順や大口スポットの輸出が商談不成立であったため、業況は悪化している。（食料品）
- 仕入価格は全て値上がりし、人員確保も困難である。（食料品）
- 原材料不足により商品価格が上昇し、それに伴い消費者離れが進行している。（食料品）
- 売上額に大きな変化はないが、仕入価格、包材、人件費が上昇した。（食料品）
- 売上は横ばい傾向にある。仕入価格、物流費用が上昇し、製造現場の人材確保に苦慮している。（食料品）

- 原材料の値上がり分を製品価格に転嫁しているが、値上がり分を埋めるに至っていない。（紙製品）
- 2年に一度の薬価改定の影響で、主力製品の販売価格が下がった。（医薬品）
- 前期までの受注残を確実に納入出来た。（衣服）
- 人件費、厚生費の負担が大きい。売上単価を引き上げられない。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

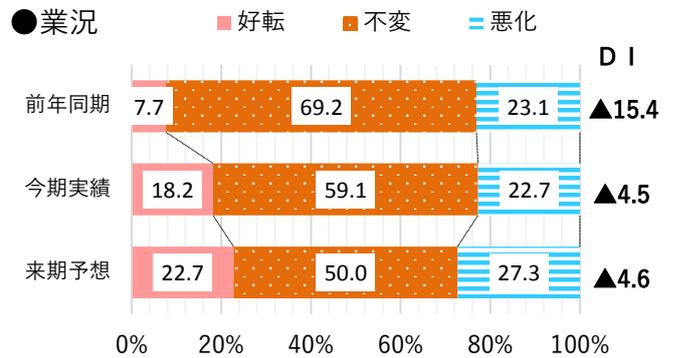
- 夏場にかけてスパークリングワインの最需要期となるため、売上増加が見込まれる。（飲料）
- 商品の値上げを予定している。（家具建具）
- 例年5月の連休後から少しずつ工事関係の受注が動き出し、業績が好転する見込みである。（金属製品）
- 原料の仕入単価が上昇傾向にあり、売価への転嫁が難しい。（プラスチック）
- 6月～8月に出荷ピークを迎え、売上高が増加する見込みである。（金属製品）
- 需要量が減少する見通しである。（金属製品）
- 今後、秋にかけていくつかの物件が動き、工場は多忙となる見込みである。やや遅れ気味の材料確保と秋から冬にかけての物件成約に向けて努力する。（金属製品）
- 外部の技術者を招聘し、従業員全体のレベルアップを図る。一部工程のオートメーション化による人為的ミスの軽減及び経費圧縮、借入金の圧縮を計画している。（食料品）
- 商品を値上げする予定である。（食料品）
- エネルギー価格の上昇が問題となってきているので、更に状況は悪化する見込みである。（食料品）
- 好転、回復の兆しは見られない。（食料品）
- 大型案件確保のため、取り組みを強化する。原料をばら積みで仕入れ、低コスト化を図る。（食料品）
- 天候や北朝鮮の動向に大きな変化がなければ、業況は好転する見込みである。（紙製品）
- 製品価格への転嫁により、原材料の値上がり分を吸収し、採算が好転すると予想している。（紙製品）
- 輸入天然素材の引取単価の上昇と、包材関連の値上げは当面続く見通しである。（医薬品）
- 今期同様、販売管理費、仕入単価の上昇が予想される。新幹線関連の物件の増加も引き続き進行すると予想される。（その他繊維製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

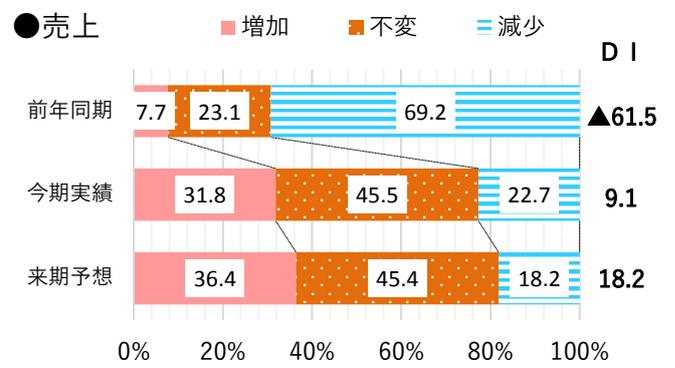
今期(H30.4~6)の業況判断DIは▲4.5で、前年同期(H29.4~6)と比べ10.9ポイント上昇しました。

来期(H30.7~9)は、今期と比べほぼ横ばいを予想しています。



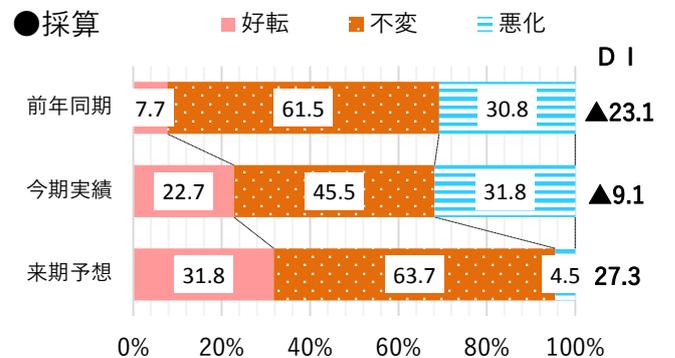
今期の売上DIは9.1で、前年同期と比べ70.6ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上が増加すると予想しています。

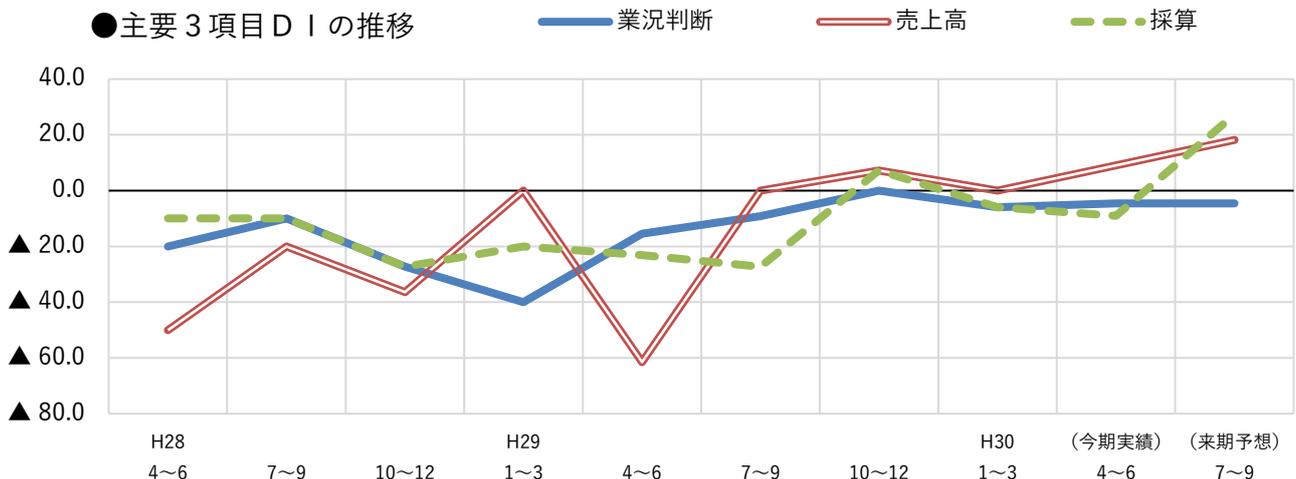


今期の採算DIは▲9.1で、前年同期と比べ14.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算好転の動きが強まると予想しています。



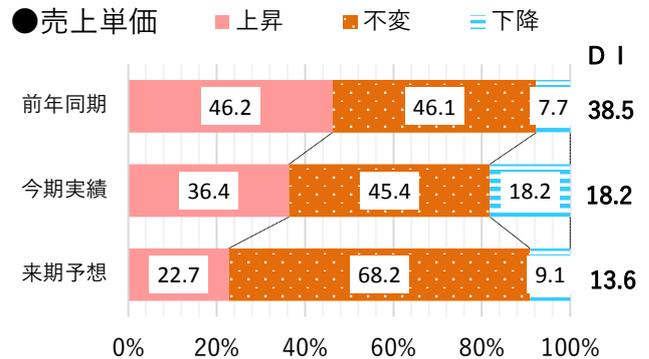
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

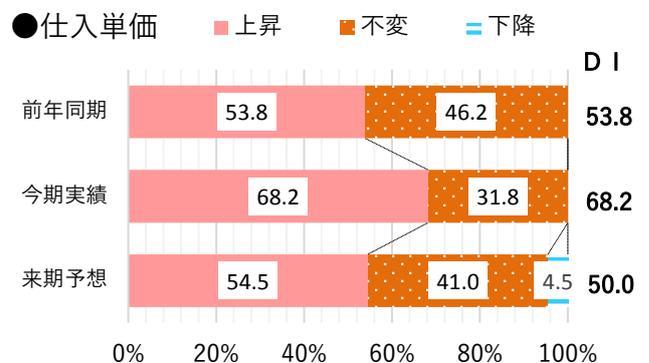
今期の売上単価DIは18.2で、前年同期と比べ20.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上単価に大きな変動はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは68.2で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇しました。

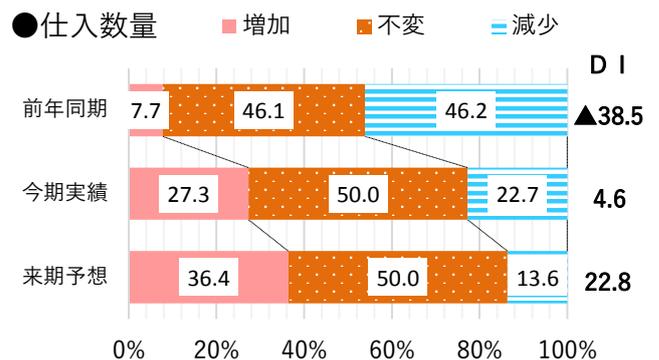
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、上昇傾向が続くと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

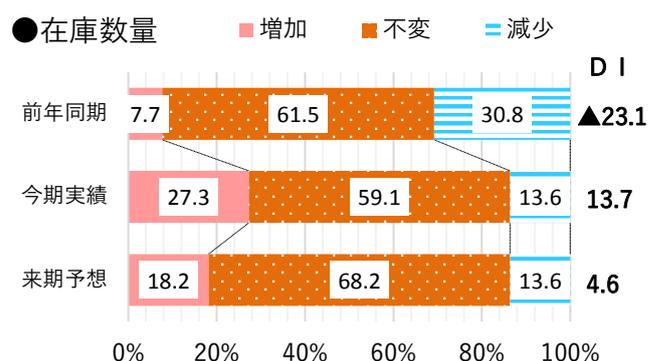
今期の仕入数量DIは4.6で、前年同期と比べ43.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ仕入数量が増加すると予想しています。



今期の在庫数量DIは13.7で、前年同期と比べ36.8ポイント上昇しました。

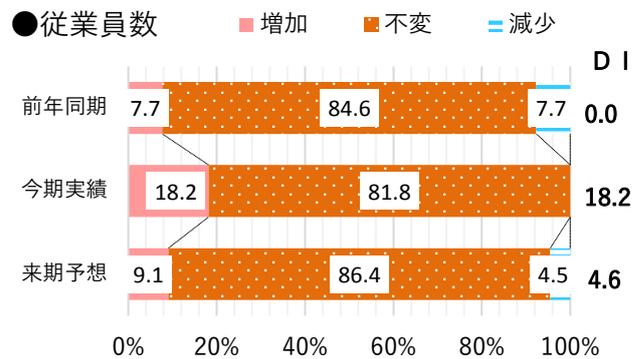
来期は、今期と比べ在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは18.2で、前年同期と比べ18.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は77.3%、不足していると回答した企業の割合は22.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の63.6%を占めています。

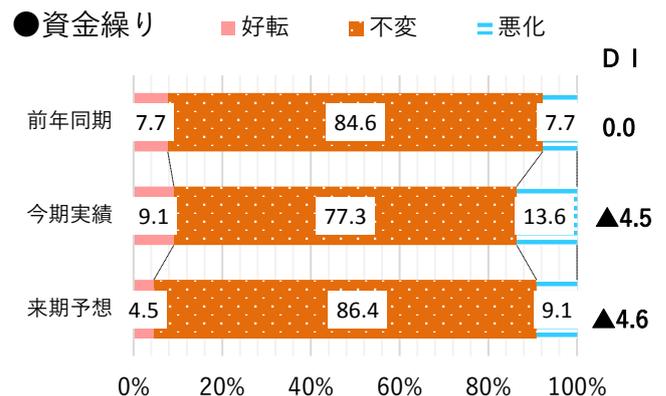
次いで多かった回答のは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	14
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	0

資金繰り、設備投資

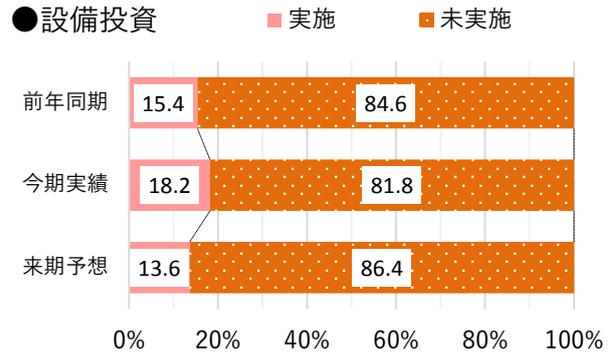
今期の資金繰りDIは▲4.5で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



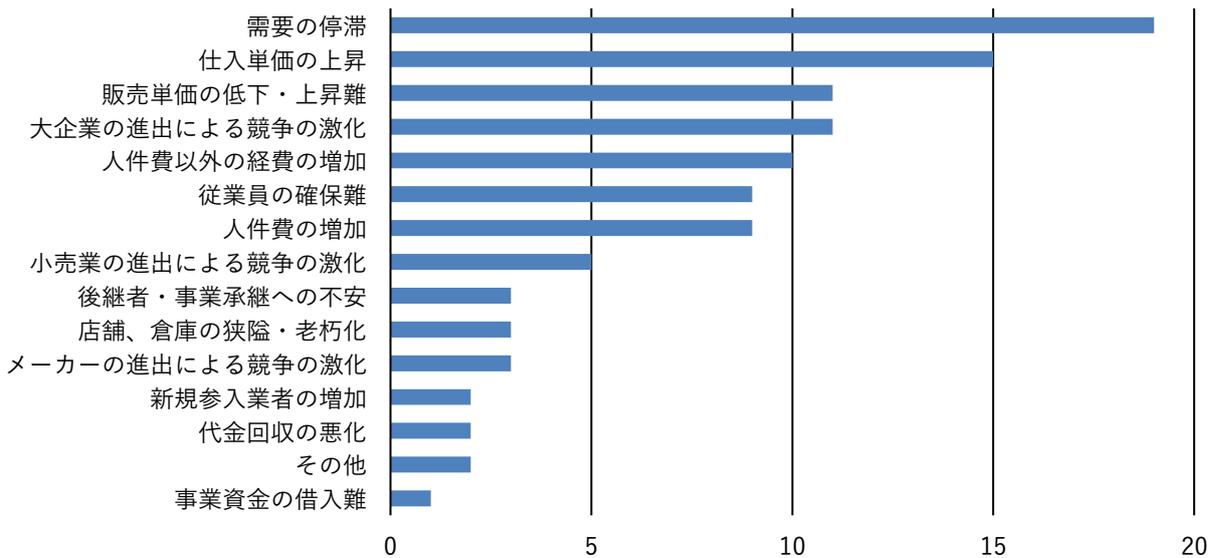
設備投資を実施した企業の割合は18.2%で、前年同期と比べ2.8%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、
「付帯施設」（同位）、2位が「店舗」、
「倉庫」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は13.6%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「販売単価の低下・上昇難」、「大企業の進出による競争の激化」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- メーカーの人手不足による納期の不安定感、原材料不足による原価上昇、輸送費の値上がり等で先が読めない状況である。（飲食料品）
- 売上高、経常利益ともに前年比で微増となっており、予算未達の状況である。業況はほぼ不変と判断した。（飲食料品）
- 需要の伸び悩み、仕入価格、輸送価格の上昇が問題である。（飲食料品）
- 北海道新幹線、高規格道路建設工事増により、売上額は上昇傾向にある。（建築材料）
- 売上目標は予算比、前年比共に達成できた、人件費のアップが営業利益に大きく影響している。（電気機械器具）

- 売上額の増加は数量が増加したのではなく単価上昇によるもので良いものではない。その分与信リスク、在庫リスクの増加に繋がっている。（鉱物・金属材料）
- 原油価格の高騰により、仕入価格が上昇した。（燃料小売）
- 取扱商品は嗜好品の資材が多いため、思ったほど売上の上昇はなく、仕入価格は上昇している。（包装資材）

[来期の業況について]

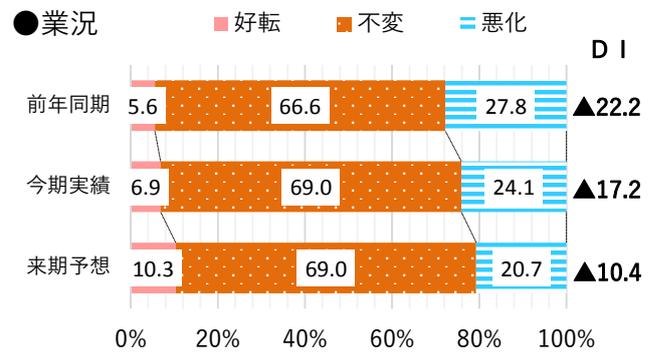
- 直近の状況から判断し、好転を予想している。当社の業種の特性として、売上が天気によって左右される傾向があるものの、前年度の売上は超える見込みである。（飲食料品）
- 北海道新幹線、高規格道路建設工事による売上高の上昇傾向は、来期以降5年～10年続く見通しである。（建築材料）
- 札幌の大手同業者の動向により変動することが予想されるが、例年通り8月の売上は伸びないと予想する。資金繰りの悪化を懸念している。（自動車部品）
- 来期は前期同様の数量が見込まれるので単価上昇分で売上額は増加すると予測する。最近倒産件数も増えてきているので与信管理を強化したい。（鉱物・金属材料）
- 原油価格値上がりのため化学製品が値上がりし、輸送費も上昇しているため仕入価格が厳しい状況になると予想する。（包装資材）

小 売 業

業況、売上、採算

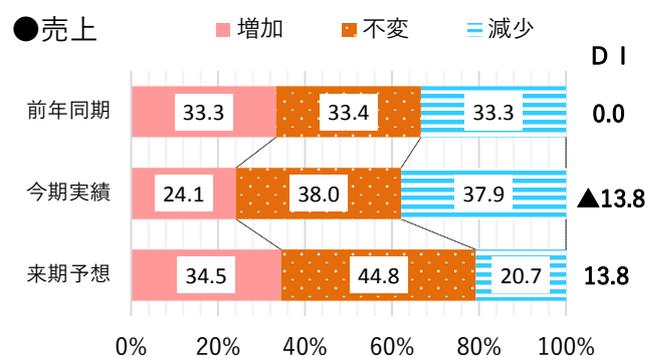
今期(H30.4～6)の業況判断DIは▲17.2で、前年同期(H29.4～6)と比べ5.0ポイント上昇しました。

来期(H30.7～9)は、今期と比べ業況が改善すると予想しています。



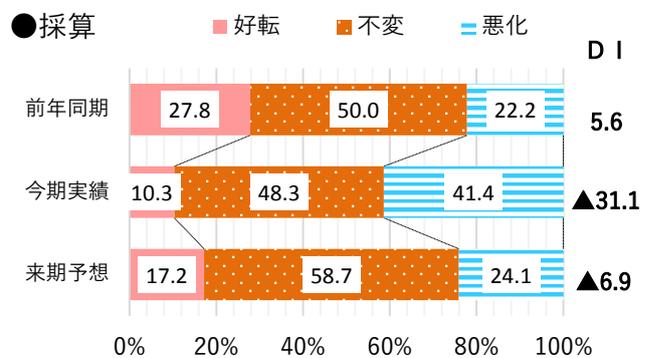
今期の売上高DIは▲13.8で、前年同期と比べ13.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加すると予想しています。

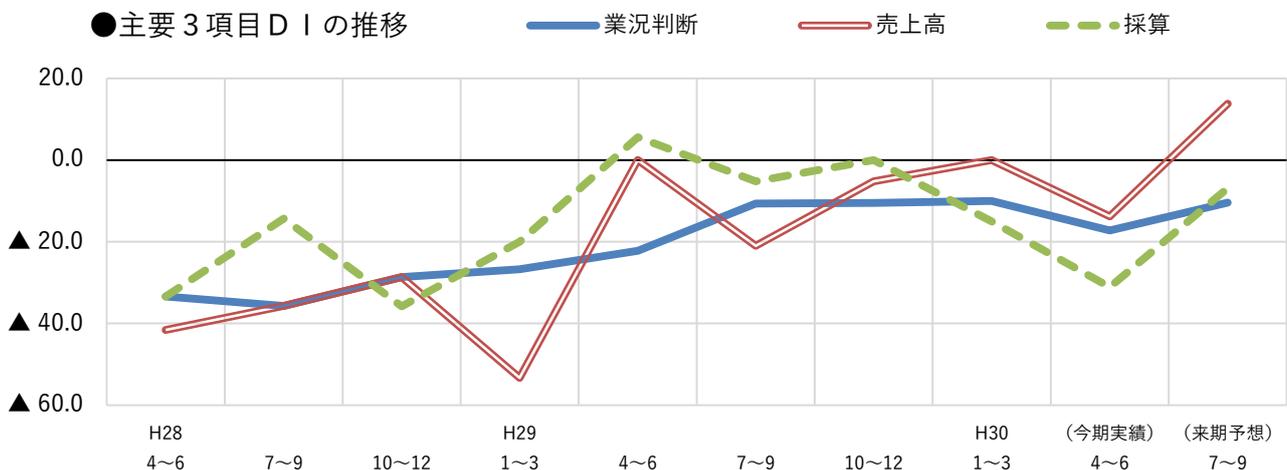


今期の採算DIは▲31.1で、前年同期と比べ36.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算が好転すると予想しています。



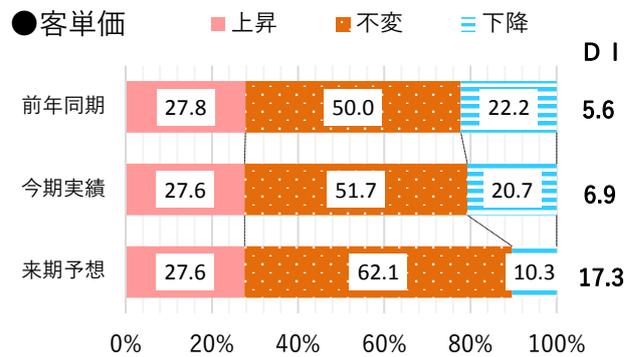
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

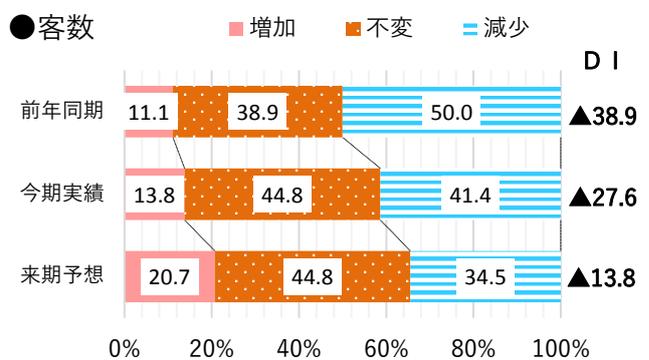
今期の客単価DIは6.9で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ客単価下降の動きは抑制されると予想しています。



今期の客数DIは▲27.6で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇しました。

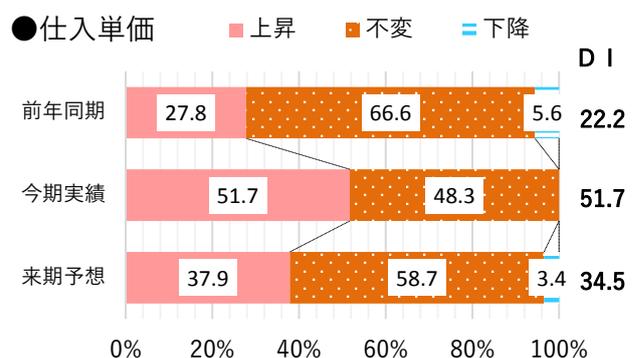
来期は、今期と比べ客数が増加すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

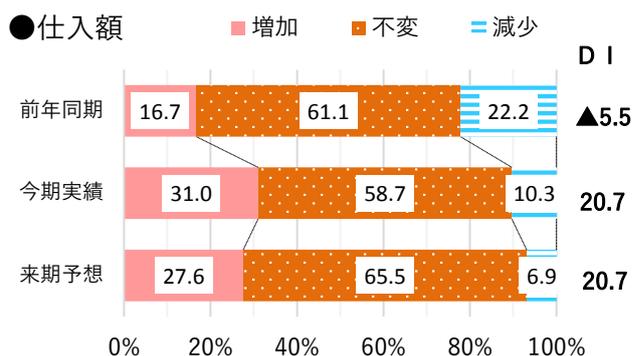
今期の仕入単価DIは51.7で、前年同期と比べ29.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



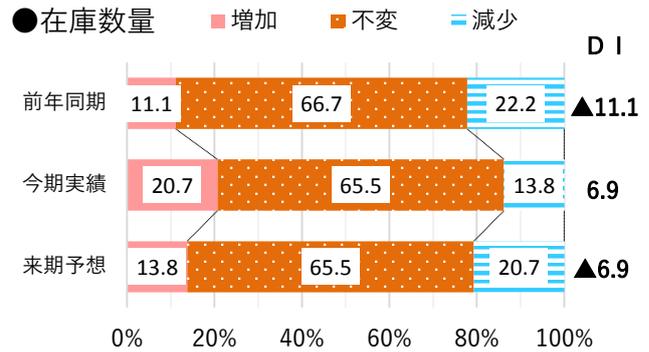
今期の仕入額DIは20.7で、前年同期と比べ26.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ仕入額に大きな変化はないと予想しています。



今期の在庫数量DIは6.9で、前年同期と比べ18.0ポイント上昇しました。

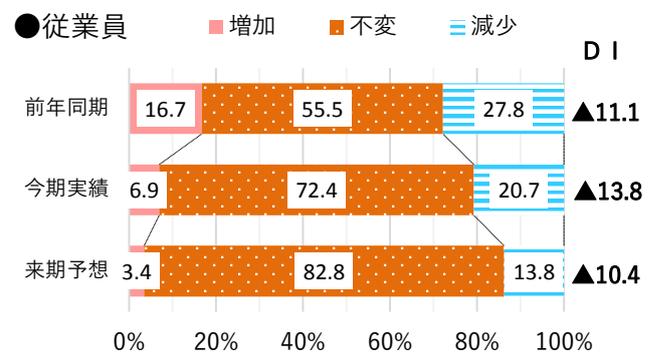
来期は、今期と比べ在庫数量が減少すると予想しています。



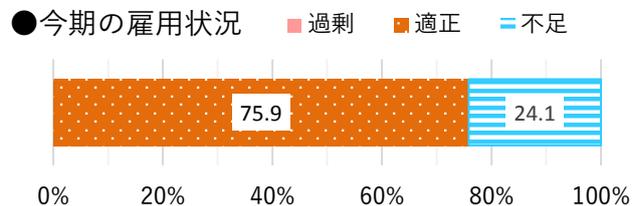
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲13.8で、前年同期と比べ2.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は75.9%、不足していると回答した企業の割合は24.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の60.0%を占めています。

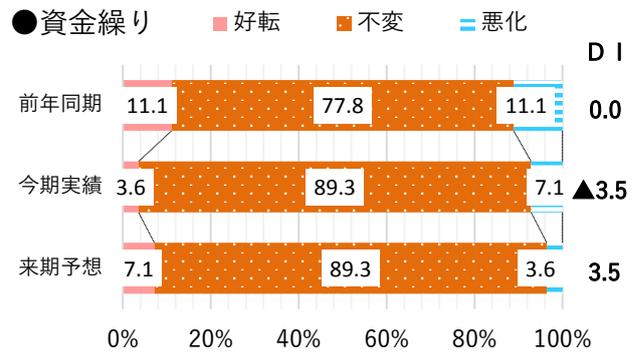
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	18
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

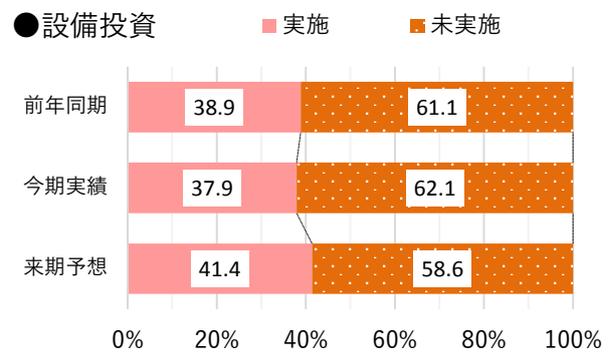
今期の資金繰りDIは▲3.5で、前年同期と比べ3.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りは好転すると予想しています。



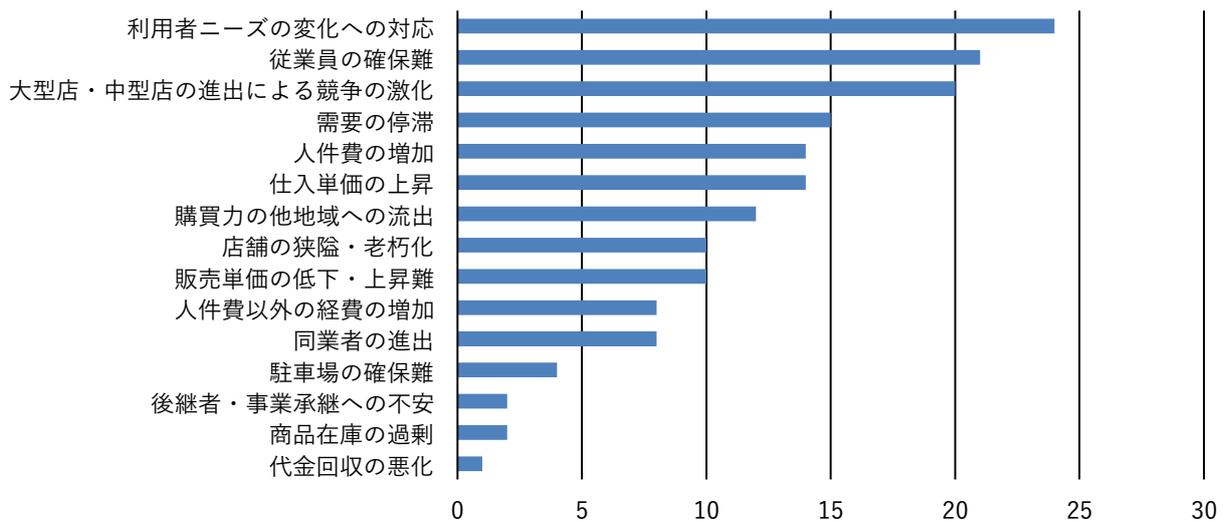
設備投資を実施した企業の割合は37.9%で、前年同期と比べ1.0%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は41.4%で、今期と比べ増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「利用者ニーズの変化への対応」、2位が「従業員の確保難」、3位が「大型店・中型店の進出による競争の激化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原材料と包装資材の値上げ、従業員の高齢化が進行した。(食料品小売)
- 法人需要、個人購買ともに伸長した。3年連続仕入単価が上昇した。(食料品小売)
- 売上額は増加しているが、原油価格の上昇により、利益が伴っておらず業況は悪化している。(燃料小売)
- 競合他社の活性化により、客数、売上が減少した。(大型店)
- 従業員の確保が計画通りに進まず、人手不足である。(大型店)
- 大型店は低価格競争に徹しているが、当店は専門分野を厚くする。(衣服・身の回り品小売)
- 固定費の削減と、売上の増加により経常利益が増加した。(自動車小売)
- 利用客数の減少による売上の減少が大きい。4月の薬価改定の影響で、医療用医薬品の仕入の採算が悪化した。
(ドラッグストア)
- 客数が減少する中、インバウンドにより何とか売上をキープしている。(ドラッグストア)
- ゴールデンウィークの天候不順により、業績は伸び悩んだ。(ホームセンター)
- 部門により好不調はあるが、店舗全体としての業況は不変である。競合他社の出店もあり、利用客数を減少させない努力が必要だと感じている。(ホームセンター)
- 人口減少により客数が減った。従業員の雇用により人件費が増加した。(コンビニ)
- 昨年比で利用客と売上が微増となったが、最低賃金の上昇に追いつかない状況である。(携帯電話小売)
- 欠員分の従業員が入らず人手不足が続いている。(菓子製造小売)
- 人口減少により客数、売上が減少した。(時計・メガネ小売)
- 大きな工事があるため、売上額は前年を上回ったが、仕入単価が上昇し、利益が出にくい状況である。
(家具・建具・畳小売)

[来期の業況について]

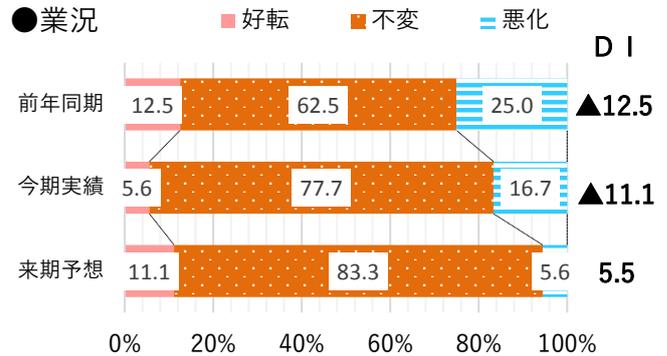
- 上昇傾向にあった仕入単価が安定すると予想する。(食料品小売)
- 苦戦している売り場の活性化を進めたい。(大型店)
- 人員確保を進める一方で、全体経費のコスト引き下げを目指す。(大型店)
- 技術者の確保に苦慮する。(衣服・身の回り品)
- 固定費を前年並に維持し、売上を増加させることで、経常利益、従業員賃金の増加を見込んでいる。(自動車小売)
- 利用客数の増加にはあまり期待出来ないため、インバウンド向けの戦略で売上を維持したいと考えている。
(ドラッグストア)
- 外国人客をどれだけ取り込めるかが業績を左右すると考えている。(ドラッグストア)
- ピーク時の売上が振るわなかったため、回復を期待しているが不透明な状況である。(ホームセンター)
- 端境期に入るが、お盆、夏休み商戦に入るので売上の増加が期待出来る。(ホームセンター)
- 若者は携帯電話の時計機能や、インターネットによる購入を中心に利用するので、時計小売店の売上は厳しい状況が続くと考える。また、日本人客は少ないと予想している。(時計・メガネ小売)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

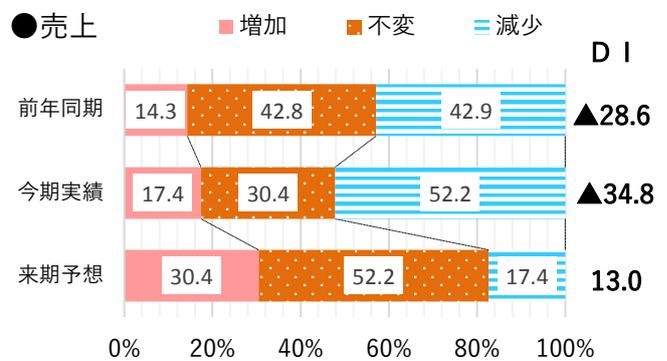
今期（H30.4～6）の業況判断DIは▲11.1で、前年同期（H29.4～6）と比べ1.4ポイント上昇しました。

来期（H30.7～9）は、今期と比べ業況が改善すると予想しています。



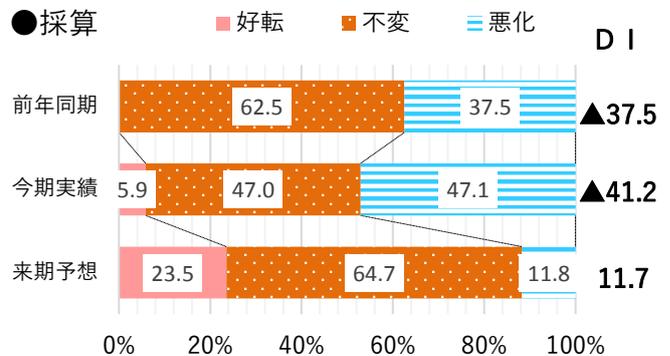
今期の売上高DIは▲34.8で、前年同期と比べ6.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加すると予想しています。

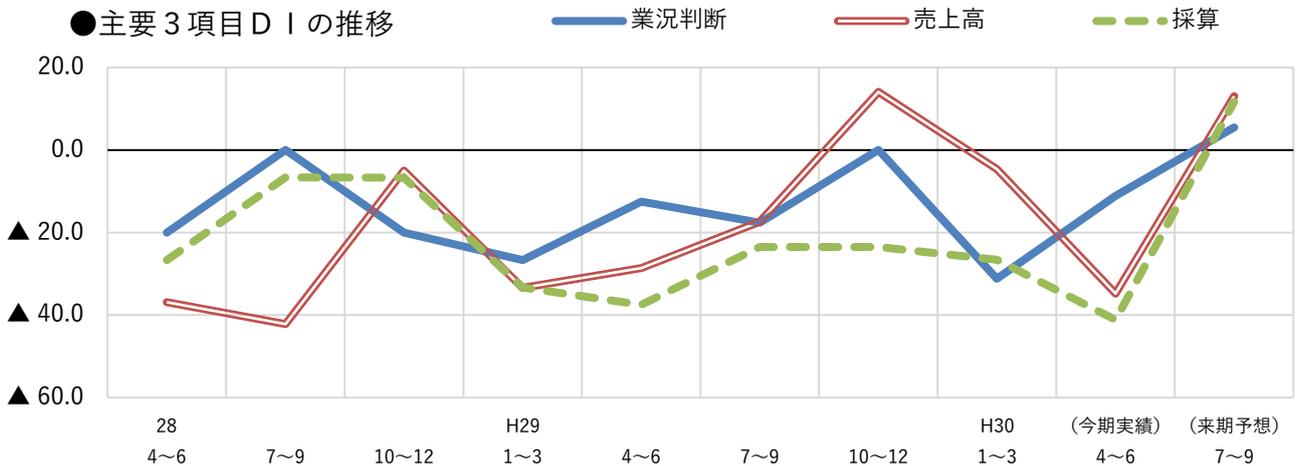


今期の採算DIは▲41.2で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算は好転すると予想しています。



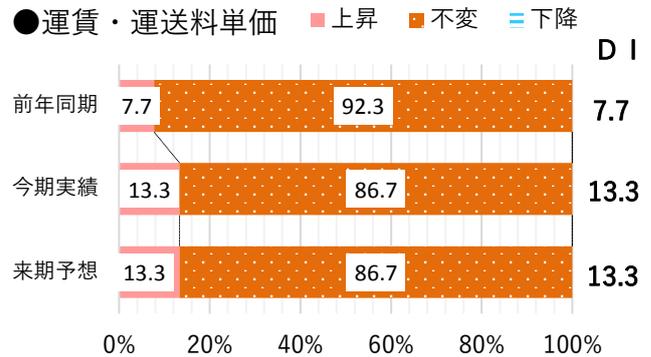
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

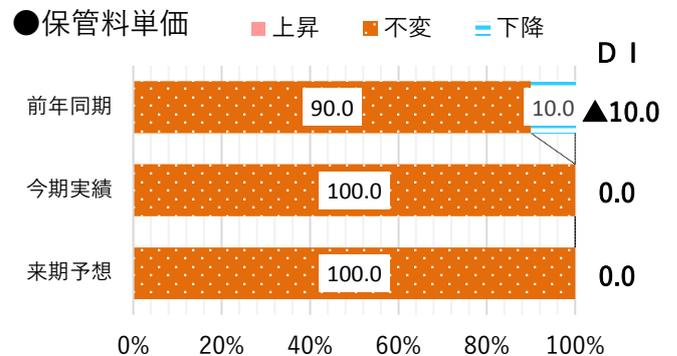
今期の運賃・運送料単価DIは13.3で、前年同期と比べ5.6ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ運賃・運送料単価に変化はないと予想しています。



今期の保管料単価は0.0で、前年同期と比べ10.0ポイント上昇しました。

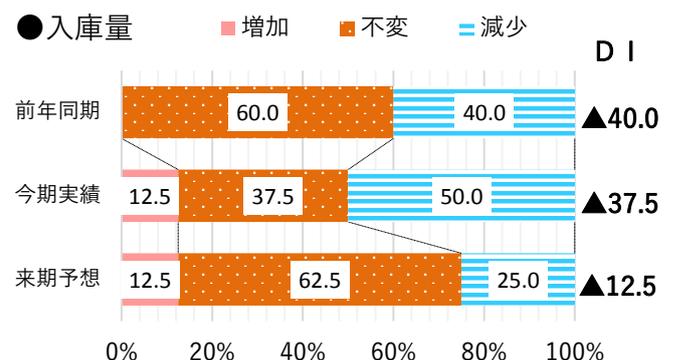
来期は、今期と比べ保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

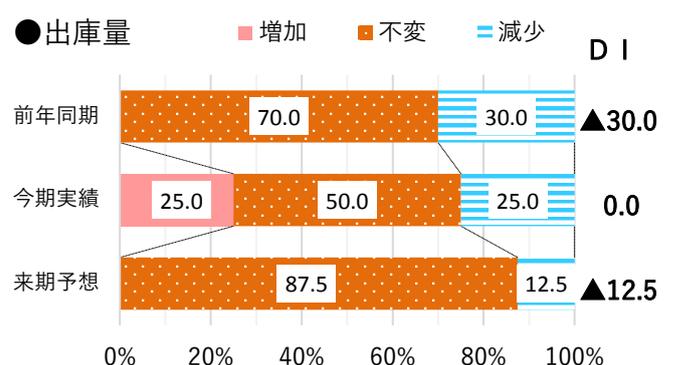
今期の入庫量DIは▲37.5、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ入庫量の大きな変化はないと予想しています。



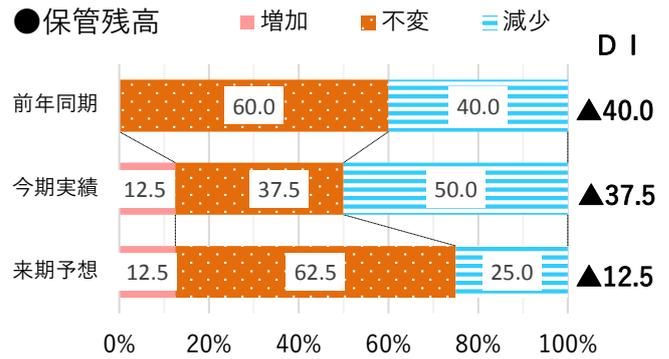
今期の出庫量DIは0.0で、前年同期と比べ30.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ出庫量に大きな変化はないと予想しています。



今期の保管残高DIは▲37.5で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

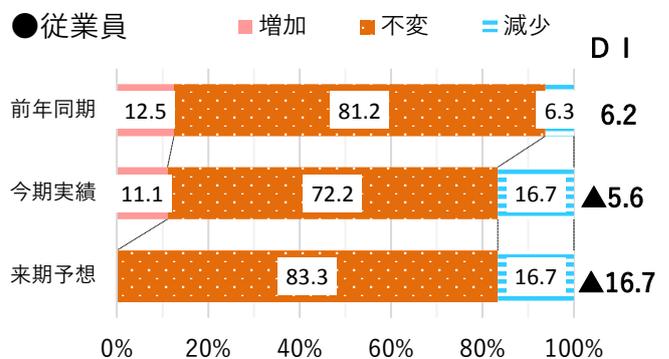
来期は、今期と比べ保管残高に大きな変化はないと予想しています。



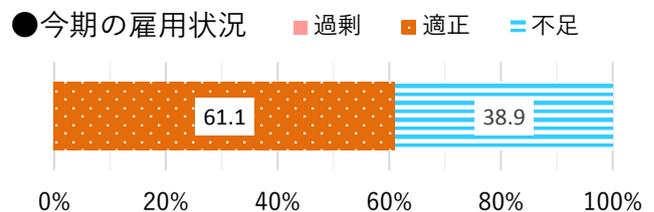
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.6で、前年同期と比べ11.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は61.1%、不足していると回答した企業の割合は38.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の50.0%を占めています。

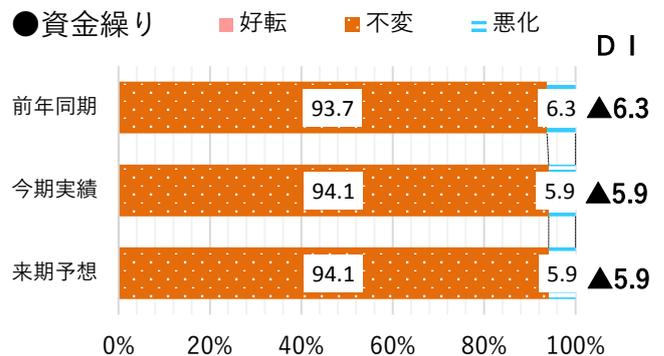
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

資金繰り、設備投資

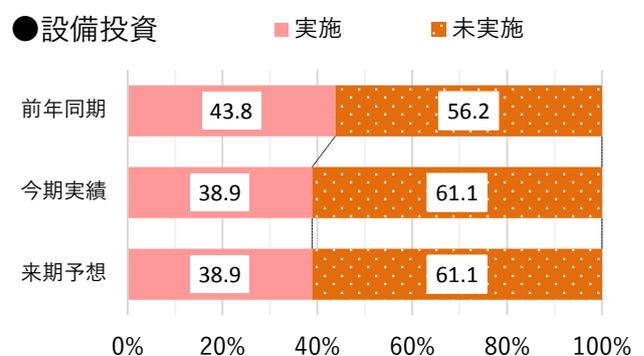
今期の資金繰りDIは▲5.9で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りに変化はないと予想しています。



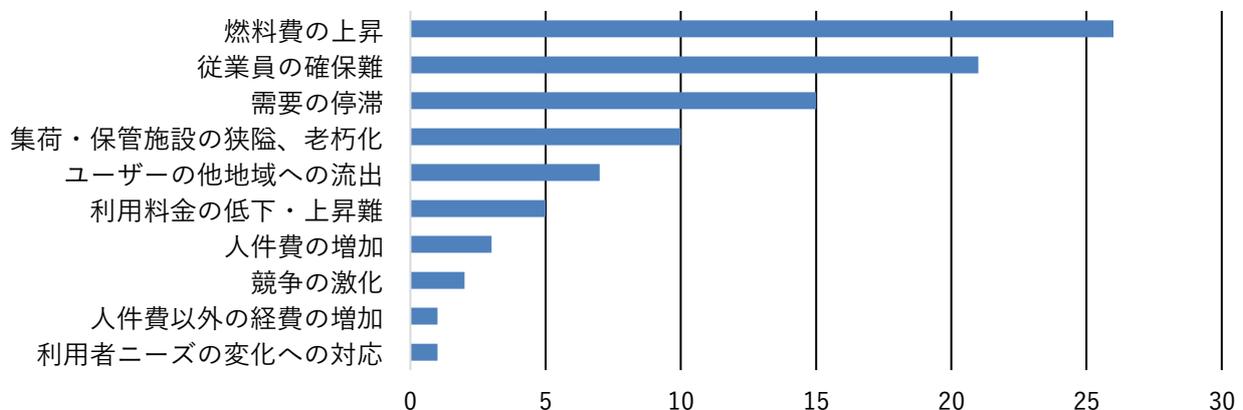
設備投資を実施した企業の割合は38.9%で、前年同期と比べ4.9%減少しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、
「付帯施設」（同位）、2位が「土地」、
「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は38.9%で、横ばいであると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」、
3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 稼働率増強により売上が増加したが、時間外労働の増加、燃料費の上昇により採算は好転しなかった。
(道路旅客運送)
- 運賃単価が上がらず、人材不足、燃料の高騰、売上の減少が進行している。(道路旅客運送)
- 前年無かった臨時の運送業務を実施したため、業況が好転している。(道路貨物運送)
- 荷主の生産量低下に伴い、運搬量が減少し、売上額が低下した。(道路貨物運送)
- 燃料は前年同期に比べると1リットルあたり10円～15円も上昇しており、運送単価に転嫁出来ないのが厳しい。昨年から続いていた大規模工事が終わり、新規現場への参入が必至である。(道路貨物運送)
- 貨物減少により在庫量及び輸送量減少となる見込み。(道路貨物運送)
- 在庫量の減少により、売上額が減少した。(倉庫)
- 燃料油の高騰によるBAF(燃料油価格調整金収受)の適用により、運賃が上昇した。(水運)
※BAF: Bunker Adjustment Factorの略称で、燃料価格の変動に対して調整される割り増し料金のこと。

[来期の業況について]

- 臨時の運送業務を引き続き実施するため、業況の好転を見込んでいる。(道路貨物運送)
- 前年より貨物量が減少する見込みである。(道路貨物運送)
- 大幅な在庫量の増加が見込めないため、売上額の減少が見込まれる。(倉庫)

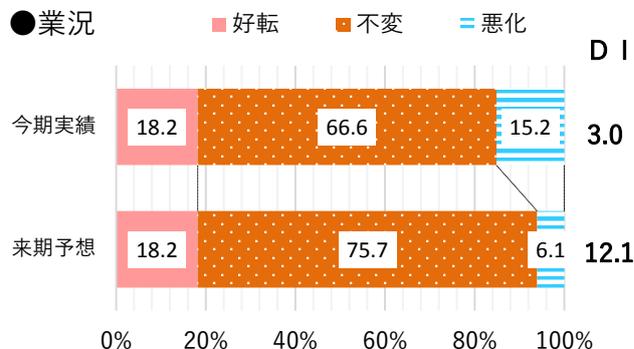
観光業

※観光業には、前年同期比のデータを記載しておりません。

業況、売上、採算

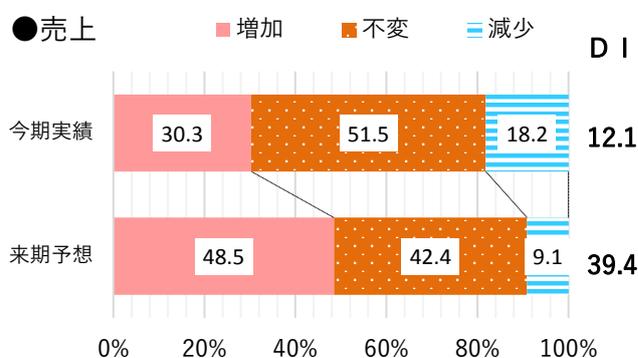
今期（H30.4～6）の業況判断DIは3.0となりました。

来期（H30.7～9）は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



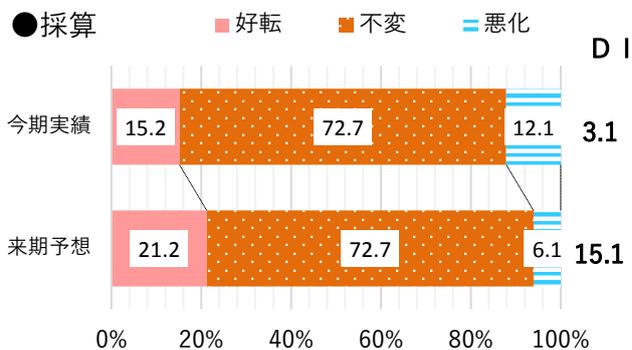
今期の売上高DIは12.1となりました。

来期は、今期と比べ売上が増加すると予想しています。



今期の採算DIは3.1となりました。

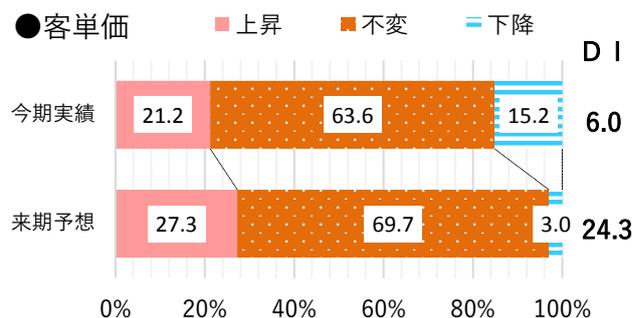
来期は、今期と比べ採算が好転すると予想しています。



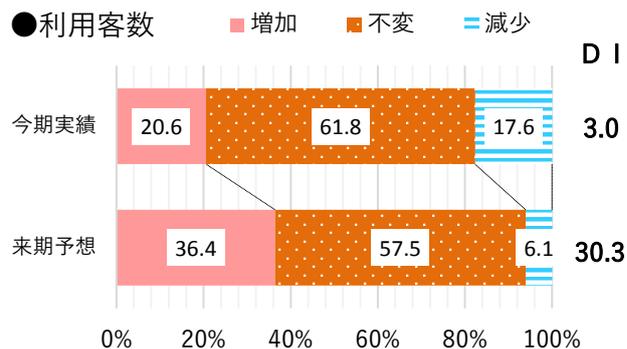
客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

今期の客単価DIは6.0となりました。

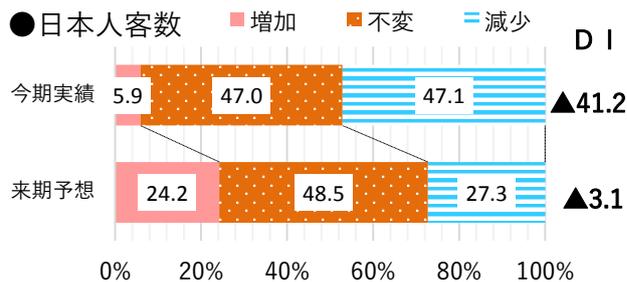
来期は、今期と比べ客単価が上昇すると予想しています。



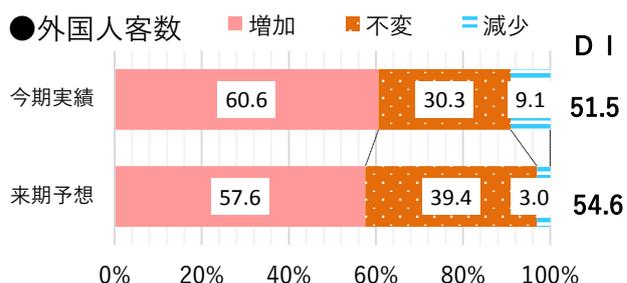
今期の利用客数DIは3.0となりました。
来期は、今期と比べ利用客数が増加すると予想しています。



今期の日本人客数DIは▲41.2となりました。
来期は、今期と比べ日本人客数が増加すると予想しています。

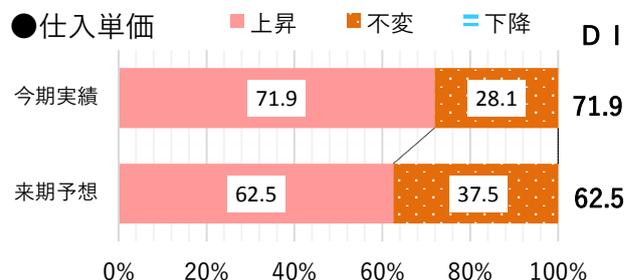


今期の外国人客数DIは51.5となりました。
来期は、今期と比べ外国人客数が増加すると予想しています。



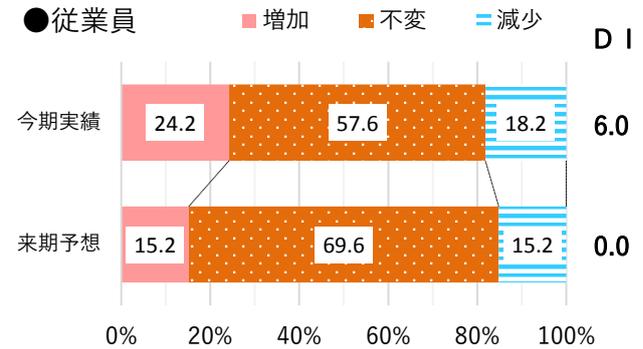
仕入単価

今期の仕入単価DIは71.9となりました。
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価は上昇すると予想しています。

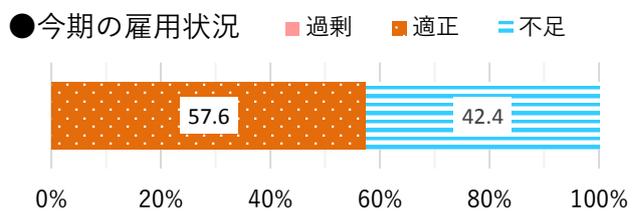


従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは6.0となりました。
来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は57.6%、不足していると回答した企業の割合は42.4%でした。



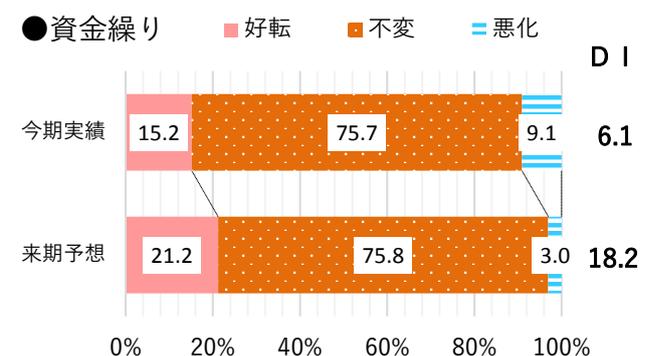
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の36.3%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	6
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	5

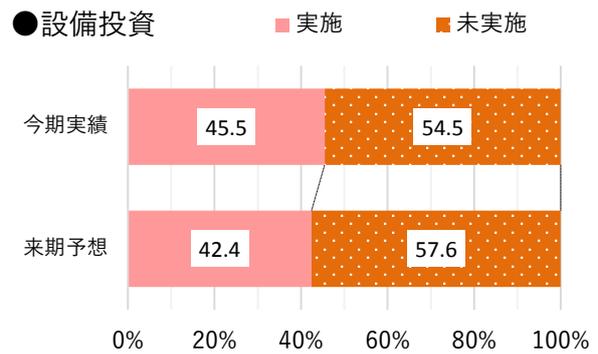
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは6.1となりました。
来期は、今期と比べ資金繰りが好転すると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は45.5%となりました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」の順です。

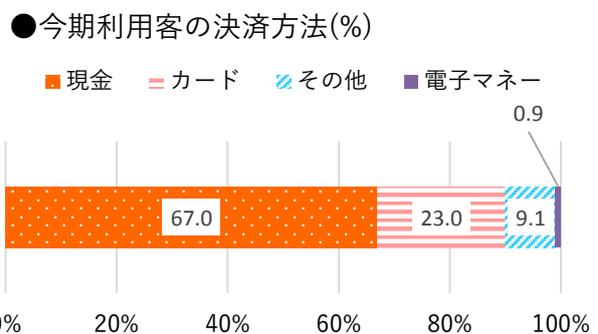
来期に設備投資を計画している企業の割合は42.4%で、今期と比べ減少すると予想しています。



今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で67.0%、2位がカードで23.0%、3位がその他で9.1%、4位が電子マネーで0.9%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、AlipayやWeChatPayなどのモバイル決済、旅行会社の観光券、クーポン券、売掛、ポイントカードです。

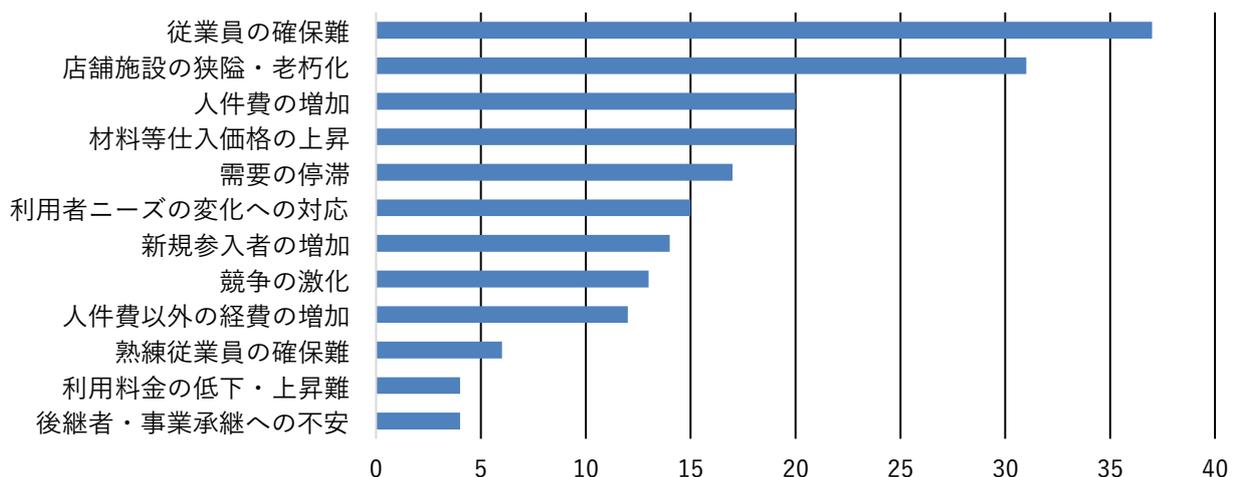


客室稼働率

今期調査で回答があった企業のうち、宿泊業に該当する11社の平均客室稼働率は67.4%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「人件費の増加」、「材料等仕入価格の上昇」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- ゴールデンウィーク後半の天候不順により、予約が伸び悩んだ。(ホテル)
- 従業員の確保に苦慮している。(ホテル)
- インバウンド客が増加している。(ホテル)
- 韓国を中心に、前年度比でインバウンドが増加した。小樽市内の価格競争の進行により売上が減少した。また、人材確保が難しい状況が続いている。(ホテル)
- カレンダーの日並びの影響か、5月の売上は昨年比で減少したが、6月の休前日は客数が増加するため、売上は増加した。しかし、輸送費、人件費、燃料費が増加した。(コテージ・ペンション)
- 原材料、光熱費の上昇により、利益率が減少している。(土産品)
- 外国人観光客はやや多いが、国内観光客は少ない。また、平均物販単価も低い傾向にある。(土産品)
- 前期に続いて天候に恵まれず客足が伸びない。運送費、燃料費が値上がりしており、仕入値全体が上昇しているが売価を上げられず、業績は少しずつ悪化している。また、社員の定着率も悪い。(土産品)
- インバウンドが増加しており、客単価も上昇している。(土産品)
- 前年に比べネット販売が増加している。(土産品)
- 原材料の不漁により水産加工品の仕入単価が上昇した。ゴールデンウィークや6月の天候不順により、観光客の来店数が減少した。(土産品)
- 昨年のインバウンドによる売上高は低調だったが、今期は上昇した。(土産品)
- インバウンドが増加しており、仕入単価も上昇している。(土産品)
- 外国人観光客は多いが、利用が少ない。周辺には市外企業が多く、食べ歩きの商品も増え飲食店舗は苦戦している。(飲食店)
- インバウンドの増加と仕入単価の変動が大きい。(飲食店)
- 主な顧客対象が国内向けであり、インバウンド増の効果が感じられない。(娯楽業)
- インバウンド客が好調である。(レンタカー)
- 車両価格、保険料が上昇している。(レンタカー)
- 輸送コストの増加を背景に、仕入価格が増加した。従業員数は適正だが、確保しにくくなっている。(社会教育)
- 天候に恵まれず観光船が欠航となる日が多く、利用客が減少した。(船舶賃渡業)
- 全体的な傾向は前年同期と同様だが、外国人客数が増加している。(水運業)

[来期の業況について]

- 秋期のインバウンドの長期休みが重なるため、売上の増加を期待している。(ホテル)
- 同業他社の設備投資の動静により、業績に反映する可能性がある。(ホテル)
- 人材確保が課題である。(ホテル)
- 増加する国内旅行客を取り込むことで、業況の改善を図る。また、従業員不足の解消を図る。(ホテル)
- 売上、採算が悪化すると見込んでいる。日本人、外国人ともにキャッシュレス決済への移行が急速に進んでいるので、対応を急いでいる。(土産品)
- 利用客に占める小樽市民の割合が増えると考えている。(土産品)
- 夏場の観光客の来樽に期待している。(土産品)
- 7月～9月は観光客が増加する時期のため、売上の増加を期待している。(土産品)
- ホテル建設ラッシュで夜の賑わいに期待しているが、周辺店舗の閉店が早いとため通行人が少ない。日中は売上があがらない中、夕食のないホテルが増えているので期待している。(飲食店)
- 仕入単価、人件費の上昇が見込まれる。(飲食店)
- 内需の拡大が見込まれないため、新規顧客需要増と相殺する見込みである。(娯楽業)
- 例年並みの予約状況である。(レンタカー)
- 本格的な観光シーズンとなり、利用客の増加が予想される。(船舶賃渡業)
- 民間求人誌等を活用し、人材を募集しているものの、厳しい状況が続くと予想する。(水運業)

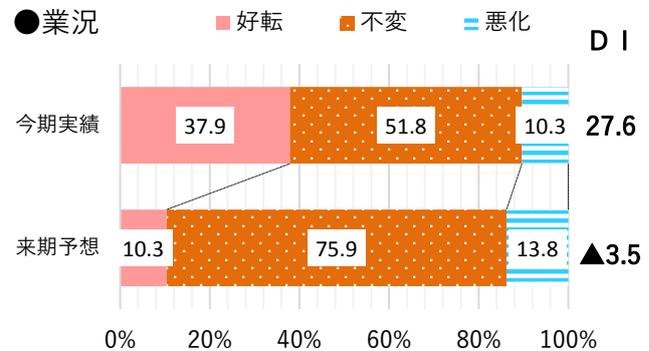
サービス業

※サービス業には、前年同期比のデータを記載していません。

業況、売上、採算

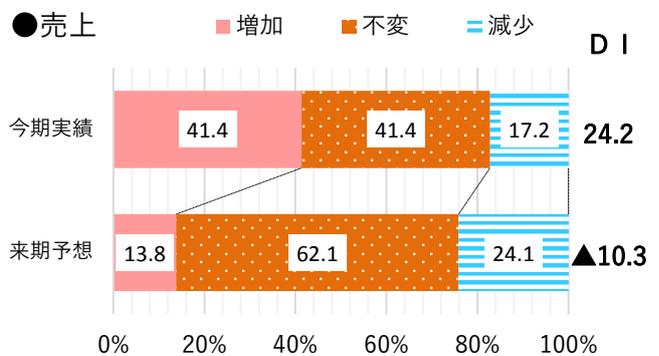
今期（H30.4～6）の業況判断DIは27.6となりました。

来期（H30.7～9）は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



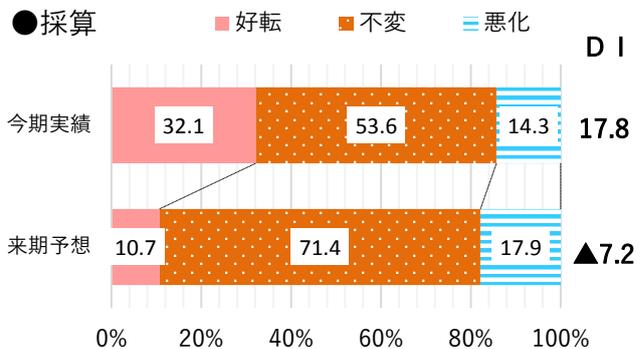
今期の売上高DIは24.2となりました。

来期は、今期と比べ売上高に大きな変化はないと予想しています。



今期の採算DIは17.8となりました。

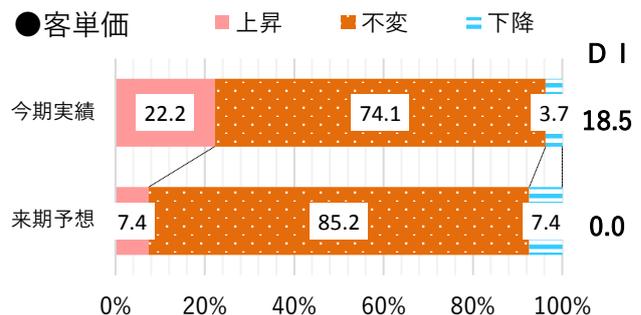
来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

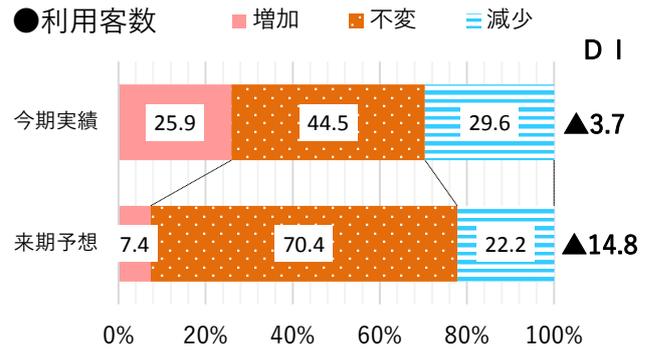
今期の客単価DIは18.5となりました。

来期は、今期と比べ客単価に大きな変化はないと予想しています。



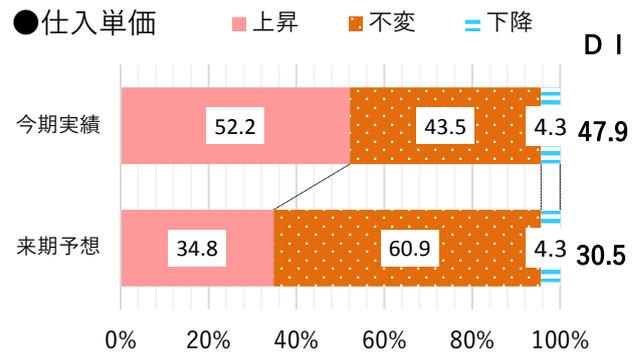
今期の利用客数DIは▲3.7となりました。

来期は、今期と比べ利用客数に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは47.9となりました。

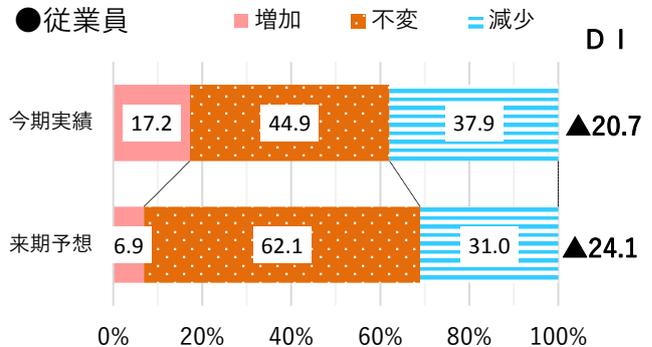
来期は、今期と比べ仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



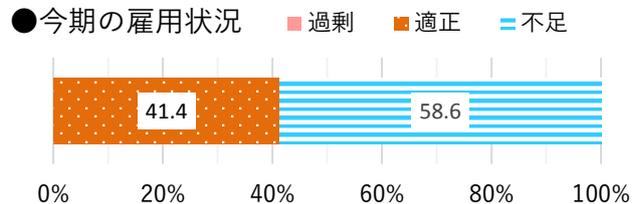
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲20.7となりました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は41.4%、不足していると回答した企業の割合は58.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、サービス業全体の32.2%を占めています。

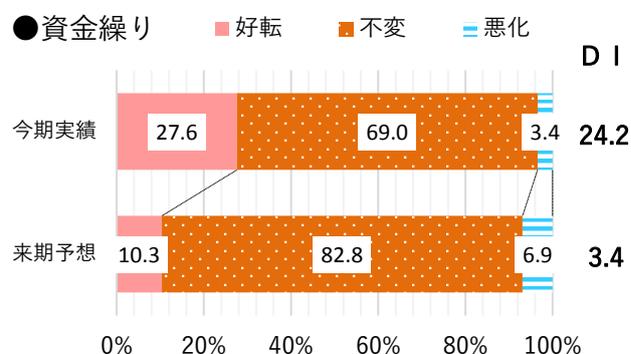
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	11

資金繰り、設備投資

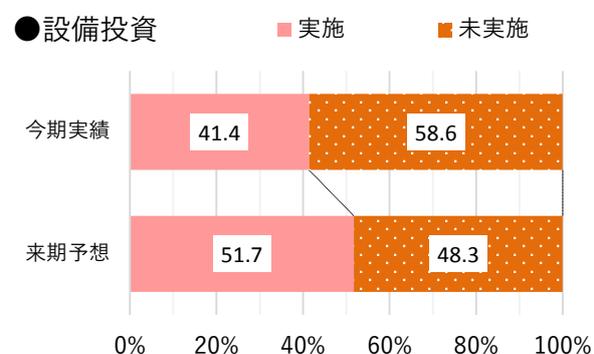
今期の資金繰りDIは24.2となりました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



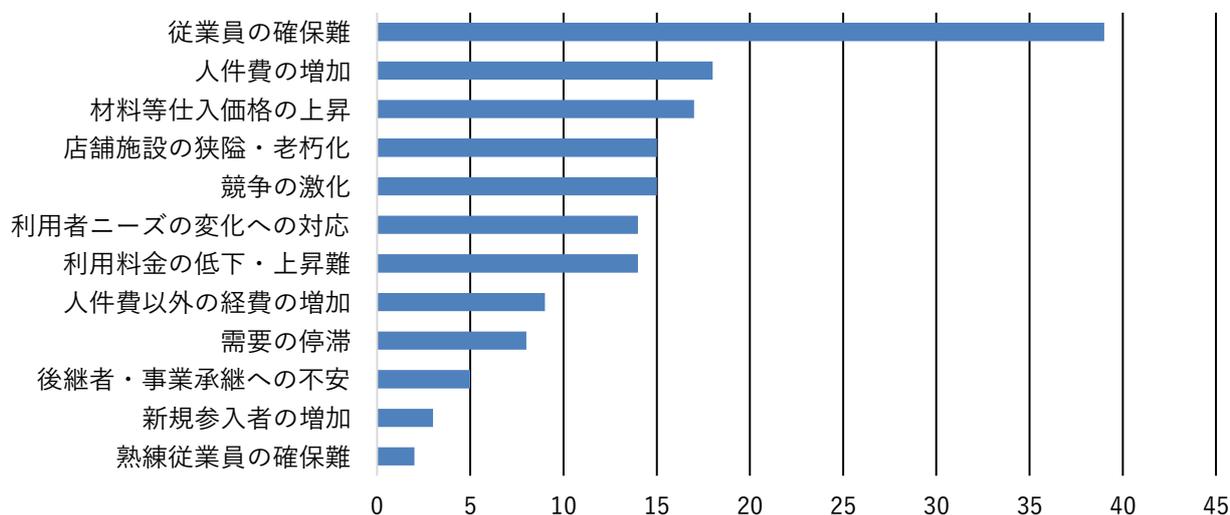
設備投資を実施した企業の割合は41.4%となりました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は51.7%で、今期と比べ増加すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 例年並みの入校生があり、新事業を立ち上げた。（教養・技能教授業）
- 売上額、客単価共に不変または微増。ガス、重油他関連資材が値上がり傾向であるが、採算は不変である。従業員の入れ替わりが激しく、人材確保に苦慮している。（各種物品賃貸業）
- 人口減少により利用客数が減少している。（不動産代理・仲介業）
- 肥料等の値上げがあったものの、天候に左右される業種なので、現在は順調に推移している。スタッフの人員は確保できているものの、高齢化が課題である。（スポーツ施設）
- 多少値段が高くても、価値のある良い商品を客に提供し満足してもらうことが利用客の増加、利益率の上昇に繋がっている。（飲食店）
- 海外旅行が好調で、来店者数は横ばいとなった。新入社員を1名雇用した。（旅行代理店）
- 仕入価格、人件費の上昇傾向が強まっている。（飲食店）
- テレビの全国放送で紹介されたため業況が好転した。（飲食店）
- 人材不足のため、出店計画を立てられない状況である。（飲食店）
- 利用単価の上昇に伴い、売上額が増加し、採算は好転している。（広告代理業）
- 利用客数が減少したが、客単価が上昇したため売上が良かった。仕入価格も納得するものを選んで良いサービスを提供できていることが売上に繋がっていると感じている。（美容業）
- 人件費が上昇している。（ビルメンテナンス業）
- 材料費仕入価格が10%以上上昇した。（写真業）
- 客数増加により売上が増加した。（美容業）
- 人材確保のため、ハローワークに働きかけているものの反応が少ない。（出版業）
- 大口の契約があり、売上が増加した。（保険業）

[来期の業況について]

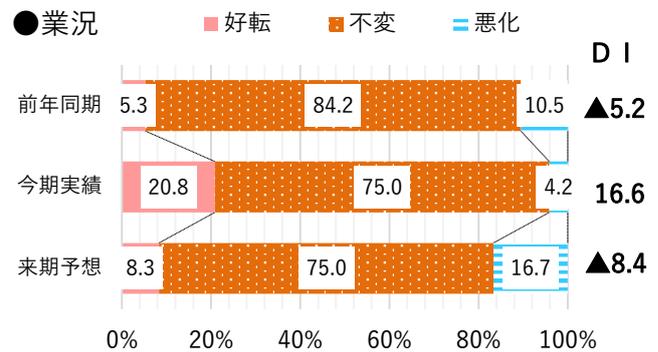
- 営業戦略の強化と異業種との提携を予定している。（教養・技能教授業）
- ガス、重油の値動き次第で業況が変わる。小樽市の就業人口減少率の高さを懸念しており、将来に向けて対策を講じてほしい。（各種物品賃貸業）
- 人口減少による利用客数の減少を予想している。（不動産代理・仲介業）
- 昨年プレー料金を値上げしたため、来期の値上げは予定していない。（スポーツ施設）
- 仕入単価は上昇しているが、ロス無く消化するよう努力する。（飲食店）
- リピート客の増加に向けて努力したい。（飲食店）
- 仕入価格、人件費の上昇傾向が強まると予想している。（飲食店）
- 利用客のサイクルが一定程度決まっており、予約制であるので見通しが立ちやすく、今後も売上は上がると予想している。（美容業）

建設業

業況、売上、採算

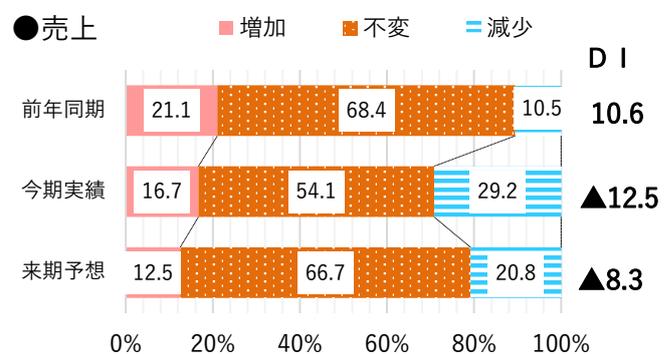
今期（H30.4～6）の業況判断DIは16.6で、前年同期（H29.4～6）と比べ21.8ポイント上昇しました。

来期（H30.7～9）のDIは、今期と比べ業況が悪化すると予想しています。



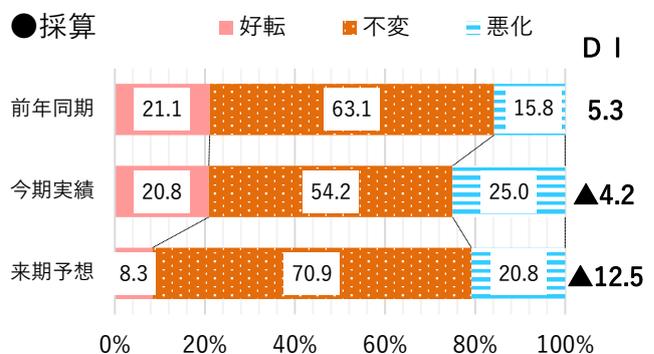
今期の売上高DIは▲12.5で、前年同期と比べ23.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上に大きな変化はないと予想しています。

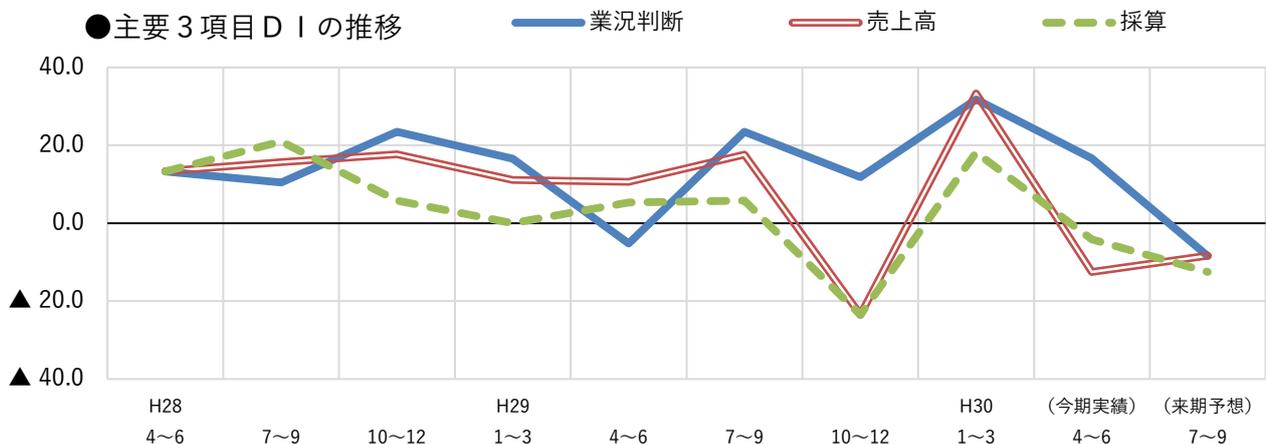


今期の採算DIは▲4.2で、前年同期と比べ9.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。



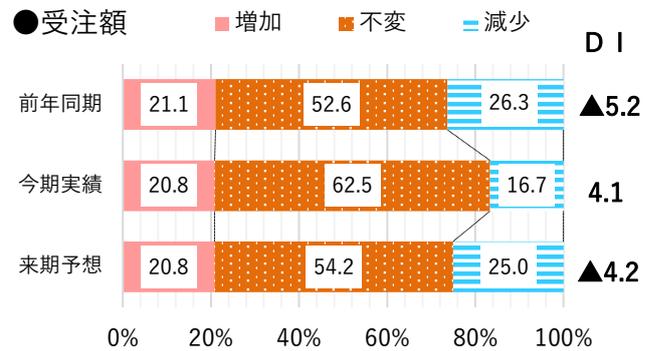
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

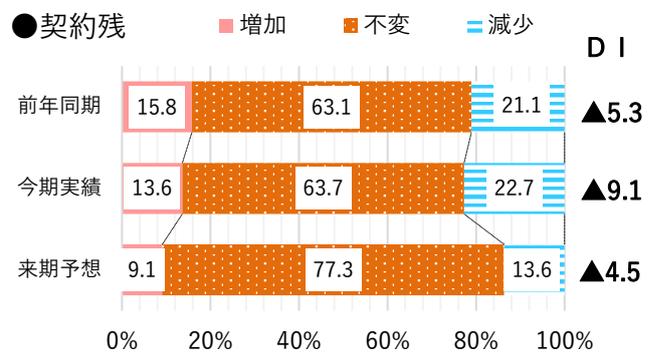
今期の受注額DIは4.1で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ受注額が減少すると予想しています。



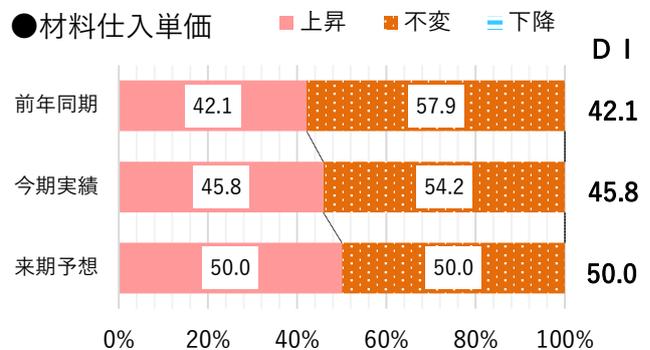
今期の契約残DIは▲9.1で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ契約残に大きな変化はないと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは45.8で、前年同期と比べ3.7ポイント上昇しました。

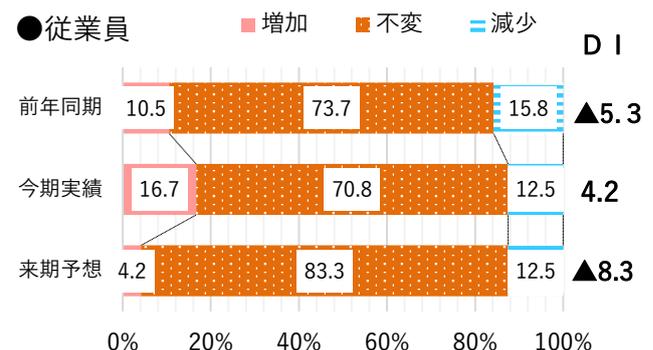
来期は、今期と比べ材料仕入単価が上昇すると予想しています。



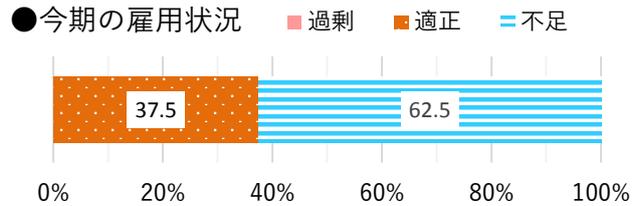
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.2で、前年同期と比べ9.5ポイント上昇しました。

来期のは、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は37.5%、不足していると回答した企業の割合は62.5%でした。



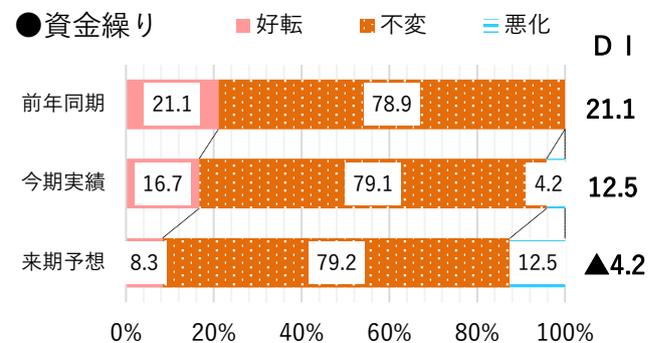
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の45.8%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

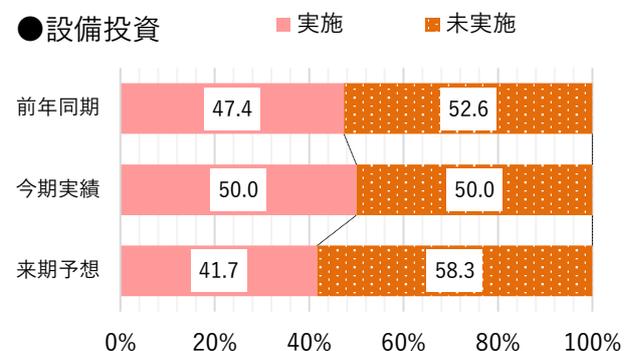
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは12.5で、前年同期と比べ8.6ポイント低下しました。



来期は、今期と比べ資金繰りが悪化すると予想しています。

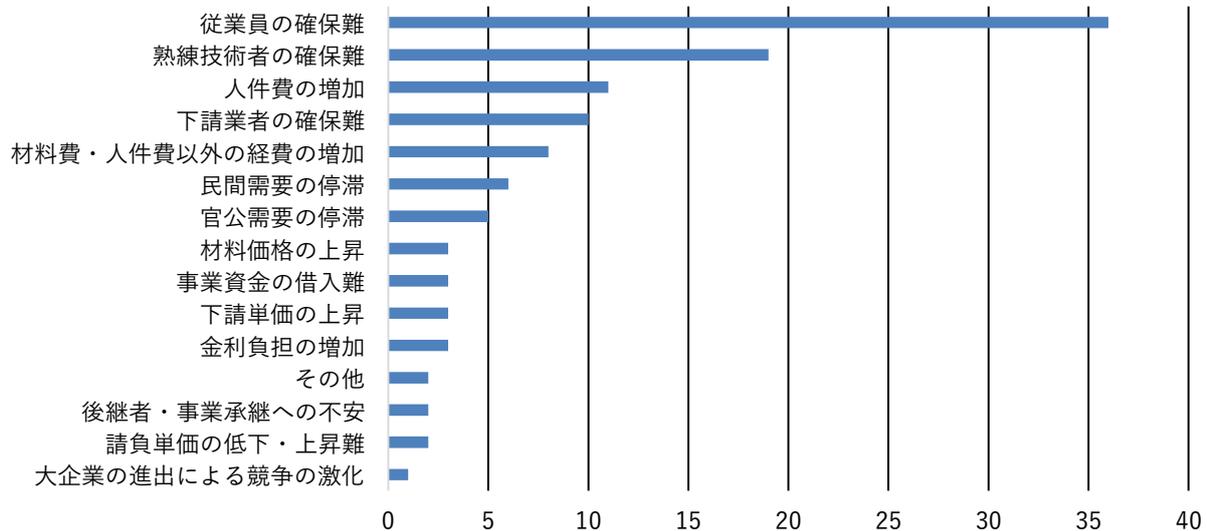
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ2.6%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」2位が「OA機器」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は41.7%で、今期と比べ減少すると予想しています。

経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は前年の残工事があったので、平年並みに推移した。(職別工事業)
- 公共工事減少のため、受注額が減少している。(職別工事業)
- 新入社員、中途採用どちらも求人を出しているが応募がない。(職別工事業)
- 原材料価格の上昇により、仕入単価が上昇している。(職別工事業)
- 大きな仕事がなく、全体的に小さい仕事になってきている。(一般土木工事業)
- 前年度比で売上額、受注数ともに減少した。少額の未消化工事があるものの、人材不足のため施工できない。材料費、外注費ともに上昇傾向にあり、資金繰りも悪化した。(一般土木工事業)
- 下請業者の確保が難しく、外注経費が上昇傾向にあるため、採算が悪化した。(一般土木工事業)
- 前年が通年で好調であったため、対比はマイナスが多くなると予想する。今期からしばらくは例年並みに推移する見込みである。(一般管工事業)
- 4月、5月は不調だったが、6月に入り持ち直した。(一般管工事業)
- 人材確保が困難な状況に加え、工事単価が低下しており厳しい状況である。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 人材不足や原材料価格の上昇、公共工事の減少による受注額の減少が続くと予想する。(職別工事業)
- 働き方改革に伴う週休2日制の導入により、外注コスト等が上昇するため、更なる採算の悪化が懸念される。(一般土木工事業)

市内企業倒産状況

平成30年4月～6月
負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は5件、前年同期比増加
負債総額は3億9,400万円、前年同期比増加

	倒産件数	負債総額
	5件	3億9,400万円
前年同期比	件数 +1件 (前年同期 4件)	負債 +2億4,400万円 (前年同期 1億5,000万円)
■4月 自動車整備（負債8,000万円：業績不振による破産）の1件が発生した。		
■5月 食品卸（負債1億3,000万円：業績不振による破産）、飲食店（負債4,900万円：業績不振による破産）、管財卸（負債8,200万円：業績不振による破産）、水産物卸（負債5,300万円：業績不振による破産）の4件が発生した。		
■6月 なし		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

平成30年4月～6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は133件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は64棟185戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	133件	64棟185戸
前年同期比	件数 +29件 (前年同期 104件)	戸数 +8棟73戸 (前年同期 56棟112戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		